

〔資料〕

東京都農業試験場における園芸作物の病害研究成果(1950～2004年)*

堀江 博道・竹内 純・飯嶋 勉*²

キーワード：園芸作物，研究成果，新病害，文献目録

東京都農業試験場（開設時 東京府農事試験場）は1900年（明治33年）に豊玉郡中野町（現在の中野区中央；JR中野駅南口付近）に設置された。当初の10年間は病害研究の専任部門がなく，種芸部，園芸部において付随的に病害に関する試験が行われていた。1910年に病虫部が設置され，さらに1924年に現在の立川市富士見町への試験場移転と前後して，病害研究が本格的に開始された。

東京都における農業は日本農業の中でも先駆的な役割を果たしてきた。すなわち，野菜作は都市近郊農業として位置づけられて，関東地域で最も早期に開始され，区部や北多摩地域を中心に発展した。花卉についても大消費地に隣接するという有利性から，大正年代にはわが国で初めての本格的な花卉の温室群 田園調布・玉川温室村 が大田区（現）に形成され，また，古くからの花卉園芸の産地である江戸川区鹿骨などでも独特の生産・経営形態を発展させた。現在まで，中山間地域から島嶼地域まで広範囲にわたる東京農業では様々な形態の農業が営まれている。病害研究は当然のことながら地域農業と不可分であり，その時々々の主要品目や栽培形態にあわせた病害防除対策を中心に実施された。その結果，東京都農業試験場における病害研究は，全国の農業県における試験場の研究とは異なる分野あるいは先駆となる分野において数多くの成果を上げてきた。これらの成果は東京都の生産者に還元されるとともに，首都圏や大都市圏周辺の各県においても米麦中心の農業から野菜，花卉，緑化樹木などの多品目生産に移行する中で，東京都の蓄積された病害研究成果が注視され，あるいは再評価され，広く活

用されている。

本稿では，今後の東京都における病害研究の参考として役立てるため，「東京都農業試験場研究報告」が発刊された1953年以降の主要成果の概要，ならびに1950年以降の引用可能な文献の目録などをとりまとめた。なお，組織の所管は異なるが，東京都小笠原亜熱帯農業センターにおける病害研究成果もあわせて記述し，文献を採録した。

文献目録の作成にあたり，東京都病害虫防除所 栄森弘己氏，同・星 秀男氏ならびに同 農業振興事務所 久保田まや氏には1980年代半ば以降の関連文献の収集にご協力いただいた。

．主要成果の概要

本項では1950年代以降に東京都農業試験場で実施した園芸作物の病害研究の主要成果について，研究対象のグループ別にまとめた。各病害の項では，研究を実施した主要な期間，主な文献，研究実施の背景，成果の概要を記述し，メモの項には該当の研究成果の位置づけやその後の波及効果について述べた。掲載した成果には病害抵抗性育種，農薬登録拡大，現地実証試験などのように他分野の研究室や他機関と共同で実施した項目を含む。引用文献は本資料の後半に掲載した野菜，果樹などの分野別の文献目録に対応させてあり，該当文献は目録の氏名および発表年を太字で示した。なお，目録には病害担当者が単独あるいは共同著者である文献に限って登載した。

* Research Review on Economic Plant Diseases at Tokyo Metropolitan Agricultural Experiment Station since 1950. By Hiromichi Horie, Jun Takeuchi and Tsutomu Iijima (Received August 30, 2004 ; Accepted September 20, 2004)

*² 元 農業試験場 場長

1. 野菜の病害に関する研究

(1) ダイコンの病害

1) モザイク病

研究期間：1947～1951年。

主な文献：馴松ら(1953b)、馴松(1979)、白濱(1950a, 1957)。

背景：本病はダイコンでは毎年の発生を認めていたが、とくに1936～37年および1947年に練馬地域などの産地に大発生し、ダイコン生産量の30%以上に被害を生じた。そこで、緊急対応が要望され、現地での実態調査および各種試験研究を実施した。

成果の概要：本病の症状は葉に濃淡の斑を生じ、激しいと株全体が萎縮し、根部も肥大しない。練馬地域には年間を通じてアブラナ科野菜が栽培されて、病原ウイルスを媒介する数種アブラムシが常に認められており、このため、モザイク病が連続して発生していた。症状は春季から秋季に顕著であった。品種間で感受性に差異があり、美濃早生系は耐病性が強く、練馬、時無がこれに次ぎ、宮重、聖護院、方領などは弱かった。ダイコンを陸稲やミツバと間作すると有翅アブラムシの飛来を抑えることができ、発病を抑制した。この他、播種時期の早晚、肥培管理、植栽密度、前作との関連などが試験され、有効なデータが得られた。

ノート：間作による防除法は 陸稲間作法 や 障壁栽培法 と呼ばれ、のちに 寒冷紗被覆栽培法 が開発されるまでは、アブラムシ伝搬性ウイルス病に対する実用的な防除法として全国に普及した。本研究を基礎に事業化した「大根モザイク病総合防除展示」が行政・普及組織と連携して現地実証された(馴松ら, 1953a)。総合防除の用語や理論がまだ浸透していなかった時期に、農薬のみに頼らず、間作、耐病性品種の導入などを組み入れた展示は当時としては画期的なものであり、全国に広く紹介された(白濱, 1953a)。本研究を緒として、その後、東京都および関係機関・民間との共同により、各種のウイルス病防除技術が開発され、とくに、寒冷紗被覆栽培法(阿部ら, 1961a, 1961c)、シルバーストライプの光反射マルチによる有翅アブラムシの飛来防止対策などが実用化された。寒冷紗・不織布による被覆栽培や光反射マルチ利用技術は有機農業や減農薬栽培の基幹技術として今日でも広く活用されている(後出)。

2) 根くびれ病

実施期間：1977～1980年。

主な文献：平野・飯嶋(1980a)、飯嶋・平野(1979a, 1979b)。

背景：1970年代に南多摩地域などの夏ダイコン産地において、通称 さめ肌 と名付けられた原因不明の根部異常症状(帯状亀裂褐変症状)が多発生し、深刻な被害となった。本症状は当初、ホウ素欠乏によると考えられていたが、土壌消毒剤が有効であったことから病害との関連が示唆された。そこで、本症状の病原菌を究明し、対策を講じた。

成果の概要：本症状は6～9月どりの作型で発生し、とくに7～8月どりでは被害が激しい。典型的な病斑には太くて浅い縦の亀裂があり、高温期には内部組織も発病して黒変することがある。病原菌を *Aphanomyces raphani* Kendrick と同定した。接種試験により、症状は生育ステージや環境条件により多様であることを明らかにし、病徴移行の模式図を作成した。新病名 根くびれ病 を提案した。防除対策としてクロルピクリン剤の有効性を明らかにした。

ノート：本病は1970年代半ばに全国の夏ダイコン産地で一斉に問題となり、東京都のほか、広島県および石川県において、原因が独立して証明された。本研究成果に基づいて、産地では的確な防除対策が実施されたほか青首ダイコンの普及により、現在では本病の発生は極めて少ない。

(2) ツケナ類の根こぶ病

研究期間：1949～1956年

主な文献：本橋ら(1957b)、白濱(1953b, 1955)。

背景：ツケナ類の根こぶ病は、東京都においては1937年にすでに足立区の一部で発生が認められていたが、1948年9月のアイオン台風に伴う出水以後、江東三区(足立区、葛飾区、江戸川区)に広く発生し、大被害をもたらした。防除対策を講じるために、病原菌の生態的特徴を詳細に調査し、また、土壌消毒の効果を明らかにした。

成果の概要：本病の発生地域では、水田、小川の川底、庭などの土壌にも病原菌が分布しており、発病畑では地表～深さ30cmに病原菌の密度が高かった。伝染に関し、本病菌は種皮に付着して伝染するが、種子内に潜伏することはない。土壌中では4年以上、水中では1年7ヵ月以上生存する。発病は平均気温13～14

以上で認めるが、夏季高温期にはやや発病が少ない。本病菌は60～70℃の湿熱に10分間処理すると密度は低下するが、90℃10分でも完全には死滅しない。従って、被害株の堆肥混入は問題がある。薬剤はPCNB剤の効果が高く、その他、石灰窒素や消石灰の施用効果が認められた。また、輪作などの耕種的防除の有効性についても究明し、現地に普及した。

ノート：本研究は、わが国における根こぶ病および病原菌の研究の基礎となり、本データは東京都以外においても広く活用されている。また、後出のキャベツ根こぶ病などの防除対策にも応用された。

(3) キャベツの病害

1) 萎黄病

研究期間：1966～1969年。

主な文献：飯嶋（1971, 1974）。

背景：1966年9月、東京都におけるキャベツの最大の産地 練馬区と杉並区などの一部において萎黄病の初発生を確認した。翌1967年には被害が100haに拡大し、練馬地域の産地は壊滅の危機に直面し、防除対策が要望された。普及、行政と連携をとり、当面の防除対策を講じるとともに、最終的には抵抗性品種の導入による被害回避を目的として本研究を実施した。

成果の概要：病原菌 *Fusarium oxysporum* Schlechtendahl:Fries f.sp. *conglutinans* (Wollenweber) Snyder & Hansenのアブラナ科野菜・雑草に対する寄生性や土壤中での分布、発病温度などを明らかにした。本畑での本病の蔓延は被害茎葉の移動によって起こる場合が多い。これらの知見から発生時期の予測が可能となった。品種抵抗性に関して、在来品種はいずれも本病に感受性であり、高度抵抗性を有する実用品種は認められなかった。そこで、幼苗による抵抗性検定法を開発し、民間と連携して練馬地域の作型にあう抵抗性品種の育種を推進した。その結果、1969年以降、現地への実用的な抵抗性品種の導入を図り、本病の被害を完全に防止した。

ノート：大面積に発生し、防除が極めて困難であった土壌伝染性病害を、抵抗性品種の利用によって完全に防除できた、わが国最初の事例である。その後、萎黄病抵抗性（YR）品種は全国に普及し、本病の基幹防除技術として定着した。この成果により、国公立の研究機関や種苗会社において土壌伝染性の病害抵抗性品種の育成が重要視されるようになった。東京都における抵抗性品種の育成および実用化に関する研究はトマ

ト半身萎凋病、コマツナ萎黄病など抵抗性交配母本および実用品種開発へと受け継がれている（後述）。

2) 根こぶ病

研究期間：1974～1995年。

主な文献：平野ら（1975）、平野・飯嶋（1977）、石塚ら（1991）。

背景：キャベツでは萎黄病が抵抗性品種の導入により完全に防除された後、根こぶ病が蔓延し、大きな被害をもたらした。また、本病に対する有効な薬剤PCNB剤の登録失効が迫り、対応が必要となった。

成果の概要：施用薬量の軽減および有効性を高めるために 畦処理法 を確立した。PCNB剤に替わる新規薬剤として、フルアジナム粉剤およびフルスルファミド粉剤の有効性を確認し、両剤の新規登録を図った。セル成型苗での薬剤処理方法、抵抗性品種の実用性などについても検討を加えた。また、耕種的防除対策として、アブラナ科野菜以外の品目との輪作や休耕による被害軽減を検討した。

ノート：薬剤の定植時畦処理の技術は普及組織と連携して現地での普及を図った。この処理技術は東京都のように比較的小面積での栽培において確実な効果をもたらすとともに、全面処理に比較して薬量の低減に有効な方法である。また、PCNB剤の代替農薬の現地実証化試験を早期に実施したことにより、PCNB剤失効ならびに新農薬登録時に現地では混乱なく新防除法へと移行できた。

3) 株腐病

研究期間：1991～1995年。

主な文献：星ら（1997）、星（1998）。

背景：キャベツ収穫期における結球部の腐敗は以前から散見されていたが、1990年代以降、多摩地域において、初夏どりの作型で収穫期の結球表面に腐敗が多発し、時には壊滅的な被害を及ぼした。

成果の概要：本病の被害実態、発消長、病原菌の寄生性・系統・宿主範囲などを究明し、本病は *Thanatephorus cucumeris* (Frank) Donk (*Rhizoctonia solani* Kühn 菌糸融合群AG-1, 培養型I B) の担子胞子伝染によることを明らかにした。症状の特徴は、結球の側部～下部を中心に水浸状に褐変腐敗するとともに、白色～ベージュ色の子実層（完全世代）を豊富に形成することにある。担子胞子の飛散状況を把握し、本病の発生には収穫直前の連続降雨が密接に関与することを示し

た。同種による苗立枯病が記録されているが、症状および病原菌の菌群が相違することから、新病害 株腐病と命名した。本病の防除には結球期のトルクロホスメチル水和剤散布が有効であること、および同剤の処理適期を明らかにした。

ノート：本病は有機栽培や減農薬栽培など、農薬が比較的使われていない圃場で、しかも水田跡地などの低地や水はけの悪い畑で発生が多い傾向にある。近年、全国的にも本病の発生が確認されており、防除対象の病害と位置づけられてきた。本研究の中で実施した薬剤防除データなどをもとに本病に対する登録農薬が整備されつつある。

(4) コマツナの病害

1) 白さび病

研究期間：1974～1978年。

主な文献：堀江・菅田（1980a, 1983）。

背景：コマツナは連作に耐える品目と考えられており、事実、長期間にわたって被害が問題となる病害の発生は確認されていなかった。ところが、1974年に江東地域の一部で白さび病が発生し大きな被害をもたらした。翌年には江東地域全域、城南地域、多摩地域にも発生が拡大し、被害の深刻さから、防除対策を検討した。

成果の概要：本病は3月下旬から発生し始め、多発時期は4～6月および10～11月である。病原菌の感染には連続降雨と気温5～18℃が適し、分生子の病原性は感染適温下で5ヵ月間維持された。病原菌の系統はアブラナ系であり、コマツナの他にカブ、チンゲンサイ、ハクサイなどに病原性を認めた。防除対策として雨よけが有効であった。また、防除薬剤としてスルフェン系水和剤の効果を実証し、同剤の登録適用拡大を図った。

ノート：コマツナでの白さび病の発生生態を詳細に示した初めての研究である。その後、本病の被害は隣接県や関西地域でも報告されている。江東地域では施設栽培の普及とともに本病による被害は減少してきているが、露地栽培が多い多摩地域では依然として注意を要する病害である。

2) 炭疽病

研究期間：1975～1983年。

主な文献：堀江ら（1988d）、堀江（1990a）。

背景：炭疽病は白さび病と同様に1974年に江東地

域の一部で突如大発生し、大きな被害が生じた。本病は毎年発生するような恒常的な被害は起こさないが、発生する場合には多発生することが多く、しばしば壊滅状態となる。コマツナでの本病の報告は皆無であったため、研究に着手した。

成果の概要：本病は多発条件下では5月下旬～6月上旬から発生し始め、特に梅雨後期～9月に被害が大きい。実験的には多発期間の平均気温は20～29℃であった。また、現地圃場での多発事例では日平均気温は25～29℃、降雨が12日間連続して合計204mmあった。病原菌は形態的特徴と広範囲のアブラナ科植物のみを侵すことから、*Colletotrichum higginsianum* Saccardoと同定した。防除には雨よけが有効であることを実証し、また、防除薬剤としてスルフェン系水和剤およびチオファネートメチル水和剤の効果を実証し、両剤の登録適用拡大を図った。

ノート：本病の被害発生は露地栽培が多い多摩地域に移ってきた。発生予測が困難な病害である。病原菌については、日本有用植物病名目録第2巻（野菜および草花）第3版（日本植物病理学会、1993）には、一時、多犯性の炭疽病菌である *Colletotrichum gloeosporioides* が記載されたが、本研究を基にアブラナ科植物を特有に侵す *C. higginsianum* であることを再提案し（堀江ら、1995）、同目録の病原菌記載が変更できた。その後、本研究の供試菌株を含めた遺伝子解析からも、本種が *C. gloeosporioides* と別種であることが裏付けられた（森脇ら、1997）。最近はさらに広範囲の炭疽病菌についての遺伝子解析が進み、新たなグループ分けや種の統合が提案されている。

3) 萎黄病

研究期間：1987～1990年。

主な文献：阿部・堀江（1995）。

背景：1987年7月にコマツナの主産地である江東地域において、株が黄化、萎凋、枯死する病害が初めて発生した。同年の発生面積は135aであったが、その後、発生分布が同地域全域および多摩地域などに拡大傾向を示した。そこで、現地の要望に基づき、本病の発生状況、原因究明、防除対策を検討した。

成果の概要：発生時期は露地栽培では6～10月、施設栽培では5～11月であり、とくに夏季の高温期に被害が激しい。罹病株は、根部の維管束部が褐変し、葉の黄化、萎凋・立枯れが起こる。病原菌をキャベツ萎黄病菌と同

一の *Fusarium oxysporum* f.sp. *conglutinans* と同定した。本菌はコマツナ以外にキャベツ(萎黄病感受性品種)、カブなど広範囲のアブラナ属野菜、ハボタン、ストックを侵す。多くの品種に病原菌を接種した結果、品種間に感受性の差異が明確に認められることを示し、当面の防除対策として、耐病性品種による被害回避が有効であることを明らかにした。また、土壌消毒剤として、住宅隣接圃場でも使用可能なダゾメット粉粒剤の有効性を明らかにし、登録拡大を図った。

ノート:本病害発生当初から関係機関と連携を行い、研究成果を的確に現地実証し、防除に有効な耐病性品種や土壌消毒などの有効な手段が逐次導入された。さらに本研究の基礎的成果は当場の植物バイオテクノロジー研究室および江戸川分場での育種研究に引き継がれ、萎黄病抵抗性を有するF₁品種 葛西01 および交配母本 YR江戸川 が育成され、2003年に品種登録申請された。

4) その他の病害

モザイク病(竹内ら, 1997a): 露地栽培コマツナのモザイク症状は、カブモザイクウイルス(TuMV)が主原因であることを戻し接種により明らかにした。病原ウイルスとして記録されているキュウリモザイクウイルス(CMV)による可視的症狀は認めないか、あるいはきわめて軽度であった。

他に、うどんこ病、苗立枯病、根こぶ病、白斑病、べと病の発生を確認し、症状と病原菌を記録した(堀江, 1990b)。

(5) トマトの病害

1) 萎凋病

研究期間: 1958~1963年。

主な文献: 本橋ら(1964b)。

背景: 萎凋病は1958年当時、トマト栽培の歴史が長い世田谷区、練馬区や区部に隣接する調布市、三鷹市などで発生していたが、南多摩、西多摩地域など新興の産地でも増加傾向を示した。本病罹病株は枯死に至り、被害が大きいことから本病の発生生態ならびに防除対策を講じた。

成果の概要: 萎凋病は圃場での発生は通常は6月下旬から始まるが、苗感染していると6月上旬から発病し、被害が大きい。トマトに発生している萎凋症状は大部分が萎凋病(病原菌 *Fusarium oxysporum* Schlechtendahl:Fries f.sp. *lycopersici* (Saccardo)

Snyder & Hansen)であることを明らかにした。有効な防除対策は抵抗性品種および抵抗性台木の利用、苗床の用土消毒、本畑の土壌消毒である。

ノート:本研究と平行して当場 野菜研究室では抵抗性育種が進められ、本病およびサツマイモネコブセンチュウ複合抵抗性固定種 東農NFR 1, 東農NFR 2, 東農NFR 3, 同実用性品種 東農 あずま が作出された。抵抗性品種の利用は現在では本病防除の主流となっており、主要な市販品種は萎凋病(レース1)抵抗性である。また、本研究において検証したその他の防除方法も各種フザリウム病の防除対策として広く利用されている。なお、本研究当時のトマト萎凋症状は萎凋病が主体であったが、1970年代には半身萎凋病が蔓延することになる(次項)。

2) 半身萎凋病

研究期間: 1971~1982年。

主な文献: 飯嶋(1983a, 1987)

背景: 本病は1971年に東京都三鷹市で初めて発生した病害であり、とくに半促成トマト産地において激しい被害を起こした。現地からの緊急的要望により研究を開始した。

成果の概要: 本病は未記録の病害であったため、半身萎凋病 と命名した。混乱していた病原菌種名について、宿主を異にする国内の多くの菌株とCMIから導入した菌株との比較・検証や文献の精査をもとに再吟味し、*Verticillium dahliae* Klebahn とすることを提案した。病原菌の分類基準を明確にできたことから、ナス半身萎凋病、ウド萎凋病などの病原菌も同種とした。*V. dahliae* は、トマトに対する病原性の有無から2系統に類別した。*V. dahliae* 8菌株の宿主範囲を検討し、非寄生の有用植物20科33種を明らかにした。新たに、フヨウ、ホオズキ、ジャガイモ、キンセンカ、コスモスの半身萎凋病を記録した。幼苗を用いる抵抗性検定方法として菌叢磨砕液あるいは分生子懸濁液を用いた浸根接種法を開発し、本病・萎凋病(レースJ1)・サツマイモネコブセンチュウ複合抵抗性固定品種 東京NFVR(1983年2月; 品種登録番号 350)などを当場 野菜研究室と共同で育成した。

ノート: 本病は東京都で発生を報告した後、数年のうちに全国の主要産地で発生が確認された。特に、農業県の主要な採種圃場での発生が認められたことから、本病はトマトの重要病害として大きな注目を集めるこ

ととなった。当場で育成した本病抵抗性品種 東農交配 ふじみ は実用品種として現場導入の先駆けとなった(小菅ら, 1977; 野呂ら, 1981)。本成果を基礎に民間における抵抗性育種が活発化し、現在の主要な品種は本病菌レース 1 に対する抵抗性が付与されている。なお、本研究は、その後、全国各地の各種作物に多発生したパーティシリウム病の先導的研究として高く評価されている。

(6) キュウリの病害

1) つる割病

研究期間：1962～1964年。

主な文献：阿部ら(1964a)

背景：1960年代には、夏キュウリの連作に伴い、つる割病の発生が拡大傾向にあった。本病は土壌病害であるため、土壌消毒が不可欠であった。また、当時は土壌消毒剤の開発・普及が時代の要請であり、当場では各種消毒剤の試験結果から本畑消毒用にはクロルピクリン剤が有望であると判断していた。そこで、キュウリつる割病を対象として同剤の使用方法和効果を検討した。

成果の概要：クロルピクリン剤の処理前の耕耘は、畑土壌が非常に硬い場合を除き、不要である。ただし、畦などによる段差がある場合は平らにする必要がある。防除効果と経済的評価から適正な薬量および注入の深さを明らかにした。被覆資材はポリエチレンフィルムがビニルフィルムよりも劣化が少なく適すること、また、低温時と高温時における有効な被覆期間を実証的に示した。

ノート：本成果は野菜畑でのクロルピクリン剤処理の実用的なデータとして我が国で初めて得られたものであり、関東東山地域や全国に広く発信され(本橋, 1964a)、現在に至るまで全国の野菜産地で広く利活用されている。農林省(当時)所管の本剤普及の事業などにおいても、本成果が裏付けのデータとして用いられた。その後、ナス半身萎凋病の防除対策などにも適用された(阿部ら, 1984)。また、ウド萎凋病のマルチ畦内消毒においては農薬適用拡大の基礎データを作成した。

2) その他の病害

キュウリ病害に関して、炭疽病防除対策(横浜・大塚, 1954c, 1954d)、炭疽病およびべと病発生と気象との関係(本橋・横浜, 1955c)、キュウリ苗に発生す

る病害防除薬剤(本橋・土方, 1957a)、キュウリ数種病害に対する種子消毒剤の効果(平野, 1974)、根こぶ線虫病に対する殺線虫剤の効果(竹内ら, 1992)などが究明された。

(7) ウドの病害

1) 疫病

研究期間：1987～1989年。

主な文献：堀江ら(1993a)、堀江・竹内(1994d)。

背景：1980年代に、東京特産である夏ウド栽培(抑制軟化栽培)において軟化茎が基部から褐変腐敗し、収穫皆無となる障害が発生した。また、収穫時に可視障害がない場合でも、流通中に腐敗が進むため、市場や消費者からのクレームが生じた。本病は徐々に蔓延し、夏ウド産地の崩壊が危惧され、本病の防除対策が強く求められた。

成果の概要：本症状について当初は生理的な障害であると誤認されていたが、本研究において多犯性の疫病菌 *Phytophthora cactorum* (Lév. et Cohn) Schröter による病害であることを明らかにした。本病は7～8月伏せ込み、8～9月収穫の抑制軟化栽培で被害が激しく、収穫皆無となり、あるいは収穫後に腐敗が進行した。本病が発生する適温は軟化室の室温とほぼ一致する20℃であった。病原菌は接種により、リンゴ・ナシの果実、タラノキ・カナメモチの茎葉などに病原性を有した。*P. cactorum*以外の各種疫病菌38菌株は、ウド軟化茎に対して病原性を認めないか、あるいは病原性が非常に弱かった。メタラキシル混合剤による根株浸漬処理が卓越した効果を示した。耕種的防除対策として、根株伏せ込み時に健全根株を選別するとともに、軟化室の芽土を定期的に交換することが有効であった。

ノート：本成果をもとに、関係機関と調整し、銅・メタラキシル剤の登録拡大を図った。現地の普及組織および生産者団体による徹底した指導により、生産者は本成果をもとに根株の選抜や根株の消毒を行っており、現在では本病をほぼ完全に防除している。

2) その他の病害

菌核病および白絹病：根株養成畑、軟化室、仮伏せ中などでの両病の発病状況を調査し、病原菌の伝染環を推定した(飯嶋, 1962a)。また、両病の発病温度について、実験的に確定した(堀江・竹内, 1993b)。

萎黄病：ウド養成畑において茎葉の黄変や根茎の導管部の褐変を起こす萎黄病を記録し、病原菌を *Fusarium*

solani (Maritus) Saccardoと同定した(本橋・阿部, 1960a)。本菌による萎黄病は萎凋病の蔓延とともに発生が減少し,大きな問題とはならなくなった。しかし,近年は*Fusarium oxysporum* Schlechtendahl:Fries(分化型未決定)による株枯れ症状が多発している。この症状は萎黄病の症状と区別できないため,萎黄病の病原に同種を追加した(星ら,2000)。

(8) その他の主な病害および薬剤耐性菌対策

レタス(サラダナ)根腐病:1955年頃から,江東地域のサラダナに導管部が褐変し,株の生育が不良となり,甚だしい場合には枯死する病害が発生した(本橋ら,1960d)。病原菌はレタス特有に病原性を示す新分化型 *Fusarium oxysporum* Schlechtendahl f.sp. *lactucae* Matsuo et Motohashi として記載した(Matuo and Motohashi, 1967)。本病は東京都においては被害が終息したが,1990年以降,長野県などのレタス,サラダナの主要産地において,大きな被害を起こしており,複数のレースが確認されている。

ナス褐色斑点病(堀江・飯嶋,1990c):1987年に,八王子市の露地ナス栽培において東京都で初めて本病による被害が認められた。病原菌は既知の菌群と異なった。本病は梅雨が長く,冷夏となる年に多発し,また,減農薬栽培ではよく発生する。

島嶼における野菜病害:主要な出荷品目であるサヤエンドウについて主要病害を調査し,防除対策を明らかにした(栗原ら,1971;竹内・堀江,2000b)。近年,健康野菜として出荷が伸びているアシタバについては,青枯病,疫病,白絹病など9種類の新病害を記録し(表1),その対策を講じた。

その他の病害:セルリー斑点病(横浜ら,1961),トマト葉かび病(阿部ら,1962a),同・疫病(横浜ら,1965),シュンギク炭疽病(新井ら,1965;菅田ら,1964a,1966),レタスすそ腐病(平野ら,1973),同・株腐病(竹内・堀江,1997b),ネギ菌核性病害(小菌核腐敗病ほか;菅田・堀江,1975),エダマメ斑点細菌病(菅田ら,1976b),同・茎枯病(竹内ら,2003a)などの原因を究明し,防除対策を講じた。

薬剤耐性菌:治病効果の高い農薬が開発され,使用頻度が高まるに伴い,薬剤耐性菌が発生し,防除効果が減退する現象が散見されるようになった。関東東山地区病害虫専門技術員協議会と連携し,キュウリのEBI剤耐性うどんこ病菌(浅利ら,1994;堀江ら,

1994c),トマトなどのジフェトフェンカルブ混合剤耐性灰色かび病菌(山田ら,1996;堀江ら,1997b;久保田ら,1997)の発生状況を明らかにし,農業改良普及センターと共同で対策を講じた。

(9) 環境保全型・有機農業関連の病害防除技術開発

背景:農薬の安全使用,減農薬・有機農業栽培などを目的に,新技術の開発,既存技術の再評価,登録失効農薬の代替技術の検討を行った。

成果の概要:各種野菜に発生するアブラムシ伝染性のモザイク病対策として数種の光反射マルチの有効性を確認した(平野,1978;平野・堀江,1985)。イチゴ灰色かび病防除にストロームットなどのマルチ資材の有効性を認めた(平野・堀江,1985)。トマト褐色根腐病および根腐萎凋病に対する台木品種の抵抗性検定を行い,対抗性台木の実用性を明らかにした(竹内ら,1998)。スイートコーンさび病罹病残渣処理に太陽熱消毒の効果を確認した(堀江,1988a;堀江ら,1988c)。サツマイモ紫紋羽病・つる割病に対するマルチ畝内消毒の有効性を実証した(平野ら,1986a)。臭化メチルやクロロピクリン代替技術としてダゾメット粉剤剤の効果を確認した(竹内ら,1995d)。農林水産部所管の事業に関連し,農薬分析担当と連携してコマツナ,アシタバなどの東京都特産野菜の農薬登録拡大試験を実施し,都市農業および島嶼農業に利用可能な,比較的安全性の高い農薬の適用拡大を図った(竹内ら,1995d;他に防除効果に関する内部資料多数)。また,殺線虫剤ホスチアゼートの安全施用を図るため,同剤のキュウリ作物体への吸収特性解析実験に協力した(橋本ら,1998)。

ノート:減農薬栽培,有機農業に関する技術は研究対象品目以外にも応用が可能であり,農業現場へは普及組織を通して,徐々に導入が進んでいる。また,東京都特産品目の農薬登録適用拡大に関しては,行政,普及組織との連携を基礎に,農薬分析担当と共同して,コマツナ,ウド,アシタバなどに登録農薬を追加している。

2. 果樹の病害に関する研究

(1) ブドウ晩腐病

研究期間:1947~1951年。

主な文献:横浜(1953)。

背景:ブドウ生産上,大きな障害となっていた晩

腐病的確な防除対策を講じるために、病原菌の伝染機構の解明を目的として実施した。

成果の概要：実験結果から、病原菌 *Glomerella cingulata* (Stoneman) Spaulding et Schrenkの伝染機構として、病原菌は枝の組織内で越冬し、組織を移行して果実に達することを明らかにした。その後、成熟期に至り、ヒメコガネなどの昆虫による外傷部に発病し、あるいは茎葉、果実などの病斑部から昆虫の媒介による外傷接種により発病すると結論した。

ノート：病原菌は多犯性の炭疽病菌であり、本研究は樹体組織における炭疽病菌の潜在感染を実験的に証明した成果として、他の果樹や樹木などの炭疽病研究の基礎となっている。

(2) パッションフルーツの病害

1) 疫病

研究期間：1983～1989年。

主な成果：堀江・飯嶋(1992)。

背景：島嶼部において栽培が広まったパッションフルーツに、八丈島では1970年代の後半、小笠原諸島では1980年代後半から、定植1～2年後に急性立枯れを起こす病害が多発生し、農業振興上の大きな問題となった。また、小笠原からの出荷搬送の流通過程で果実腐敗が生じた。これらの原因究明と対策が要望された。

成果の概要：立枯れに関して様々な原因が推測されていたが、主原因は多犯性の疫病菌 *Phytophthora nicotianae* van Breda de Haan emend. G.Hallによる疫病(新病害)であることを接種再現試験により実証した。本菌は島嶼における各種花卉・観葉植物に疫病を起こすことを確認した。流通過程での果実腐敗は疫病菌が感染していた果実が輸送中に発病するものであり、健全果実の収穫・出荷および保冷輸送することにより腐敗果実の発生が大幅に軽減できた。

ノート：パッションフルーツの立枯れ症状は、八丈島では古くから知られており、団伊玖磨の随筆「八丈多与里」(1979年刊)にはパッションフルーツの自殺として記述されている。本病はのちに鹿児島県においても確認されており、パッションフルーツ栽培地では普通に発生する病害であると考えられる。防除対策として雨よけ栽培の有効性が実証され、また、アゾキシストロピンフロアブル剤およびTPNフロアブル剤の登録適用を図った。現在、小笠原諸島父島および母島では本病菌の生態的特徴を考慮した防除対策、す

なわち雨よけ施設や高畦栽培、株の1年更新などの耕種的な防除対策が導入されて生産性が向上し、パッションフルーツは小笠原農業における重要な品目となっている。

2) その他の病害

円斑病：パッションフルーツ果実に小斑点を生じ、商品性を低下させる新病害の原因が *Septoria passifloricola* Punithalingamであることを究明し、発消長を明らかにした(久保田ら、1996)。また、薬剤防除試験を実施し、上記の疫病と同一農薬の適用拡大を図った。

(3) その他の主な果樹病害

リンゴくもの巣病(竹内・堀江、1996)：1995年、八王子市と日の出町の観光農園においてリンゴに未記録の激しい葉腐れが生じ、*Rhizoctonia solani* Kühn (AG-I, IB)による病害であることを明らかにした。本病は梅雨期に長期の連続降雨があり、梅雨明けが遅い年に多発生する。その後、セイヨウナシにも本病による激しい被害を確認している。また、病原菌は多犯性であり、広範囲の花卉類に葉腐病、緑化樹木にくもの巣病を起こし、ガザニア、ヒペリカムなどで新病害として記録した(表1)。

その他の病害：ナシ赤星病に関して、降雨時期の薬剤防除方法を検討した(平野ら、1976)。バラ科ナシ亜科の樹木に特有に発生するごま色斑点病が、カリン、ナシ、リンゴで確認されたが(堀江、1986)、本病は通常の防除体系のもとでは実害を生じない。小笠原諸島において、パンレイシに黒かび病および炭疽病を新病害として記録した(佐藤、1987a、1987b)。

3. 花卉および観葉植物の病害に関する研究

(1) シクラメン萎凋病

研究期間：1962～1964年。

主な文献：菅田(1964a)。

背景：1960年代にシクラメンに未記録の萎凋性病害が発生し、江戸川区などの生産地で被害が拡大したため、原因究明および対策を要望された。

成果の概要：既知病害との症状の違いを明らかにした。発生時期は梅雨期から盛夏および11月以降の加温期間である。接種再現により病原菌を *Fusarium oxysporum* Schlechtendahl:Fries f.sp. *cyclaminis* Gerlachと同定し、病名を付した。防除対策として、

クロルピクリン剤などによる用土の消毒が有効であることを明らかにし、苗移植時の根の付傷防止、鉢置き場の衛生、苗の健全管理などを喚起した。

ノート：本成果などをもとに防除対策が徹底され、本病の発生は減少傾向にあったが、近年、全国的に再び増加している。この背景には、葉腐細菌病などの細菌病対策が重視されたため菌類病である萎凋病に対する油断が生じたこと、不十分な用土消毒、底面灌水による病原菌の伝搬、品種の変遷などの原因が推定される。

(2) キク白さび病菌の薬剤耐性

研究期間：1976～1977年。

主な文献：飯嶋（1977a）。

背景：キク栽培で問題となる白さび病の特効薬オキシカルボキシシン剤の効力減退現象が認められた。そこで、病原菌 *Puccinia horiana* P.Hennings の同剤に対する感受性検定法の開発が必要となった。

成果の概要：1976年にキク白さび病菌のオキシカルボキシシン耐性を初めて確認した。耐性菌検出法として、本剤含有寒天培地上に病原菌小生子を落下させて発芽を調査する方法と、薬液に冬孢子堆を浸漬して、小生子の落下の有無を確認する方法を開発した。各生産圃場では、耐性菌密度分布が異なっていた。耐性菌対策として代替薬剤を検討した。東京都への耐性菌侵入は他県からの苗による持込みの可能性を示した。

ノート：開発した検定法は他のさび病菌の薬剤感受性検定に広く活用されている。

(3) 直売用切花（ホームユース切花）の病害

研究期間：1993～1998年。

主な文献：表1参照。

背景：1990年代には、生産圃場と消費者が隣接・混在する都市農業を活かして、切花の庭先売りや摘み取り販売が増加した。一方で、切花用花卉類の栽培圃場は野菜圃場からの転換が多いため、野菜類と共通の病害の発生が問題となり、また、花卉類特有の病害も多発傾向となった。そこで、現地から直売用の切花品目に発生する病害の調査および防除対策の検討を要望された。

成果の概要：切花類21科59種に106病害の発生を確認し、このうち未記録であった30種類を新病害として登録した（表1）。土壌病害では、ナス科野菜の後作とした複数の圃場においてベニバナ、リアトリスなど10以上の品目に *Verticillium dahliae* Klebahn による半身萎凋病が新発生し、壊滅的な被害を生じた。果樹園跡の

圃場ではシュッコンアスターなどに白紋羽病の発生を確認した。また、菌核病、白絹病、灰色かび病など、多犯性病原菌による被害も多種の品目で新発生した。

ノート：本研究を基礎に、とくにナス科野菜後作に栽培する花卉品目の選択には過去に発生した土壌病害を十分に考慮すること、種苗の移動に当たっては罹病の有無に対する十分な注意を喚起した。本成果は、「直売切花の栽培事例集」（農林水産部、2002年刊行）などに反映された。

(4) 島嶼地域における花卉・観葉植物の病害

研究期間：永続。

主な文献：表1および成果の概要の項参照。

背景：島嶼部では特有の気候を活かして多様な花卉・観葉植物が栽培されているが、一方で、島嶼の温暖・多雨の気候は病害発生に適した条件でもある。このため、多種の植物に多様な病害が発生しており、その大部分は未記録の病害であるため、防除上、大きな問題となった。そこで、病原の究明と対策を要望された。

成果の概要：フリージア菌核病（浮田・飯嶋，1987a，1987b）：八丈島の特産フリージアでは連作害の主因である菌核病対策を検討した。9年間他作物を輪作または休耕した畑土壌でも病原菌が生存していた。発病には地表～深さ20cmに生存する病原菌が関与することを究明し、ダゾメット粉粒剤による土壌消毒法を確立した。ブーバルジアモザイク病（栄森ら，1990；栄森，1995a）：大島特産のブーバルジアに縮葉、モザイク、萎縮などを生じて品質低下をもたらした原因は、キュウリモザイクウイルス（CMV；血清型Y型・P型）による新病害であることを明らかにした。また、弱毒ウイルス接種によるモザイク病防除の実験を行った。

フェニックスの病害：八丈島特産のフェニックス・ロベレニにおいて、葉に発生する病害の症状を類別し、病原菌を明らかにし、褐紋病・炭疽病（竹内・堀江，1999d）、ペスタロチア病（竹内・堀江，2000c）などを新たに記録した。レザーファンの病害：伊豆諸島特産のレザーファンにさび病（柿畠ら，1988；堀江，1998）、葉枯病（神田・飯嶋，1986）などの新病害を確認し、病原菌を明らかにした。その他の病害：ドラセナ疫病（堀江・飯嶋，1989）、テーブルヤシ茎腐病（堀江・飯嶋，1993，2004a）、クルクマさび斑病（竹内ら，1994c；Sato et al.，2004）、カラー白絹病（栄森ら，1995c）、ルスカスこうじかび病（竹内ら，

2000d), ストレリチア葉枯病(久保田, 2001), 同・褐点病(星・堀江, 2004)など多くの新病害を記録した。病害目録の作成: 伊豆大島およびその近島では61科118種類の植物に合計201病害の発生を記録した(堀江ら, 2003b)。小笠原諸島では23種の病原菌類による40種類の病害を確認し, 同諸島における新分布菌類および新病害を明らかにした(佐藤, 1987a, 1987b)。また, 伊豆諸島および小笠原諸島における炭疽病菌およびその宿主植物のリストを作成した(堀江ら, 1990d)。新病害は表1参照。

ノート: 島嶼地域は新花卉類が盛んに導入されており, それに伴い, わが国で未記録の病害の発生が多い。本成果は病害診断や防除対策の基本として活用されている。なお, の炭疽病菌のリストについては, 最近の分類学的な知見に基づく再吟味が必要である。

(5) その他の主な花卉病害および薬害調査

ケイトウ根腐病(飯嶋ら, 1989b): 植栽されたケイトウが集団で萎凋枯死し, 根部が激しく腐敗する被害が発生した。病原菌はハウレンソウなどにも病原性が認められ, *Aphanomyces cochlioides* Drechslerと同定し, 新病害として記録した。

ハボタン萎黄病(堀江ら, 1990b): ハボタンの葉が黄化, 萎凋枯死する症状が, キャベツ萎黄病菌と同一の*Fusarium oxysporum* f.sp.*conglutinans*によることを明らかにした。また, 品種間の感受性に明瞭な差異があることを接種試験により確認した。

ペチュニアこうがいかび病(竹内・堀江, 2000b): ペチュニアの花や茎葉が急速に腐敗する被害が突如発生した。病原菌を*Choanephora cucurbitarum* (Berkeley et Ravenel) Thaxterと同定した。本菌は, エンドウなどに対して病原性を示した。

その他の病害: 発生が拡大したトマト黄化えそウイルス(TSWV)による病害を調査し, サイネリアなどに新たな被害を認めた(河野ら, 1998)。

薬害調査: 花卉類には登録農薬が極めて少なく, 薬害についても十分な知見がない。そこで, 登録適用拡大の基礎資料とするために, 関東東山病害虫専門技術員協議会に協力して薬害事例を2回にわたり収集した(堀江・合田, 1996; 堀江ら, 2000)。2回目の同協議会のまとめでは, 当地域10都県において, 花卉類116品目に対して228種類の農薬を施用したところ, 延べ5,823件のうち, 8.2%に薬害が, 11.7%に汚れ(薬斑)

が生じた(堀江ら, 2000)。シクラメンの花柄に亀裂や伸長阻害を起こすプロシミドン剤の薬害を実験的に明らかにし, 本剤を使用しないように注意を喚起した(菅田ら, 1983)。

4. 緑化樹木の病害に関する研究

(1) 都市緑化樹木の病害実態調査

研究期間: 1973~1982年。

主な文献: 堀江(1981a), 堀江・小林(1983a)。

背景: 1960年代の後半から緑の重要性が再認識され, 都市緑化が行政の重要課題となった。そこで, 街路樹・緑化樹木の保全や苗木生産場面での病害対策が要望された。

成果の概要: 1982年までに, 生産苗木, 街路樹, 公園樹などの緑地植栽樹木, 庭木などの病害を調査し, 約50科200種に計300種類を越える病害の発生を確認した。これらのうち半数以上はわが国では未記録の病害であったため, 主要樹種で被害の激しい病害については病名を付して新病害として公表した(表1)。東京都に生産・植栽されている樹種の多くが展示されている都立神代植物公園などで定点調査し, 約60種類の病害に関して年間の発生動向を明らかにした。

ノート: 緑化樹木の病害のデータは全国的に蓄積が極めて少ないため, 本成果は該当の分野における基礎となっている。東京都では, 「グリーンハンドブック 緑化の手引き」(農林水産部, 1993年, 2000年刊行)の病害編に本成果が活用されている。

(2) 外国産導入樹木の病害実態調査

研究期間: 1976~1979年。

主な文献: 堀江・小林(1980e)。

背景: 都市緑化が行政の重要課題となり, 諸外国で育成された有用樹種を東京都において緑化用に活用するため, 各分野にわたるプロジェクト 新樹種開発事業 が発足した。その中で, 導入樹種に発生する病害の種類と被害程度の実態調査を担った。

成果の概要: 海外から導入された樹木25科105種のうち, 約半数の16科51種に菌類病の発生を確認した。新病害として, オウシュウブナすすかび病, ナナカマド類すすかび病, イチゴノキ褐斑病などを公表した。わが国における新宿主として, セイヨウサンザシ類(ごま色斑点病), コトネアスター類(褐斑病)などを記録した。また, 数種の導入ビャクシン類がナシ赤星病菌

の中間宿主となることを接種試験により明らかにした。

ノート：ナシ赤星病菌の中間宿主となるビャクシン類については、普及組織を通して、生産者団体などに注意を喚起した。本成果は外国産樹種の生産における基礎資料として他県においても活用されている。

(3) その他の主な緑化樹木の病害

ハナミズキ輪紋葉枯病(堀江, 1980a, 1982b): ミズキ類の葉枯れ・枝枯れ症状が多犯性の菌類(所属未決定)によることを明らかにし、接種試験により13科26種の木本・草本植物に病原性を確認した。新宿主としてケヤキ, カエデ類, ヒメシャラなどを記録した。

トウカエデ首垂細菌病・うどんこ病(堀江・菅田, 1985a): 1980年頃から、トウカエデ街路樹に両病が突発的に大発生した。都全域の発生実態および発生消長を記録した。防除試験を実施し、うどんこ病にはチオファネートメチル水和剤などの治病効果を確認できたが、首垂細菌病については銅剤や抗生物質剤による初発生時期の遅延効果を認めたものの、十分な防除には至らなかった。この後、トウカエデにはうどんこ病の発生は定着したが、首垂細菌病については1980年代半ば以降は発生が沈静化している。

バラ科樹木ごま色斑点病(堀江, 1986): 1970年代に、カナメモチ, シャリンバイなど緑化の重要樹種に本病が激しい被害をもたらした。分生子飛散調査に基づき本病の発生消長や越冬形態を究明した。病原菌の宿主範囲を確定するとともに、分類学的検証により、病原菌を1属1種に統合した。伝染源の除去や有効薬剤の探索による防除対策を講じた。

グラウンドカバープランツの病害：主要品目であるフッキソウに紅粒茎枯病(竹内・堀江, 1993c), 白絹病(竹内・堀江, 1994b)など、ヘデラに斑点細菌病(瀧川ら, 1997; Suzuki et al., 2002), 疫病(植松ら, 1998)などの新発生を記録した。また、植栽が増加していたセイヨウキンシバイ(ヒペリカム; *Hypericum carcinum*)にはさび病が多発生し、壊滅的な被害を起こした(堀江ら, 1995b, 2003c, 2004b)。主要な病害では防除薬剤の選抜などの対策試験を実施した(堀江ら, 1990c; 竹内・堀江, 1996a, 2001)。

5. 環境問題に関する対応

(1) 大気汚染による農作物被害症状の診断・同定

研究期間：1971～1975年。

主な文献：飯嶋(1974a), 飯嶋ら(1974e)

背景：1970年7月18日に立正高校において光化学スモッグ(当時は東京スモッグ)による人体被害が突如発生し、都政の緊急重要課題となった。東京都ではスモッグの原因や生成機序、被害対策などに関する一大プロジェクトが直ちに組織され、現場では人体被害の発生する前に感受性の高い植物を利用して光化学スモッグの発生を予知しようという研究指標植物群の開発を担当することになった。植物病理部門では光化学オキシダントによる植物被害の診断法開発を担い、あわせて植物病害との症状の類別を図った。

成果の概要：光化学オキシダントによる植物の被害症状を確定するために、環境暴露室内で発生した各種植物の症状を東京都公害研究所(当時)で行った人工ガス暴露実験の結果と比較検討し、オゾン被害は葉の表面に光沢を帯びた銀白症状やブロンズ症状を生じ、PAN(peroxyacetyl nitrate)被害は葉の裏面に光沢を帯びた銀白症状やブロンズ症状を現わすことを明らかにした。被害部組織の顕微鏡観察により、オゾンは柵状組織の細胞を特異的に破壊し、PANは海綿状組織の細胞を壊死させることを解明し、被害部切片のチオニン染色による簡易なオキシダント被害の診断法を開発した。さらに、オゾンとPANのそれぞれに感受性の高い植物や品種を明らかにした。また、植物病害との関連で、ポプラなどで、光化学オキシダント被害と落葉性病害との区別を明確化した。

ノート：本研究により開発した診断技術は、植物のオキシダント被害における唯一の同定法として現在でも広く実用されている。

(2) その他の主な対応

杉並区井草地区における「植物異常」に関する対応(堀江ら, 1999): 1998年に東京都清掃局(当時)杉並中継所周辺で植物に異常が多発しているとの住民や報道からの指摘を受けて、関係機関と協力して調査した。その結果、指摘された20種類の症状のうち、13種類は病害、5種類は虫害であった。遠隔の2地区(調布市および立川市)に植栽された同種の植物に発生する被害と比較検討した結果、異常と指摘された障害は、いずれも普通に発生する病虫害であり、井草地区に特有な種類ではなく、発生程度も他の2地区と比較して顕著に発生していることはなかった。

・新病害，病原菌新種および新分化型一覧

1．新病害および新宿主植物一覧

東京都では全国でも最も多種類の園芸作物が栽培されており，海外からの導入品目も多岐にわたっている。従って，わが国において未記録の病害が多数発生した。新病害の究明は防除対策を講じる第一歩であり，当场おける病害研究の基礎となっている。また，病害防除対策に不可欠な農業登録も病名を確定することが必要である。

新病害については，圃場での被害状況や植物の症状の記録，分離菌の接種試験や形態観察，既知文献

などの検討による病原菌の同定，病名の提案などを，関連の学会や専門誌において公表し，それをもとに，日本植物病理学会病名委員会に病名申請を行う。同委員会で申請内容を審査後，日本植物病名目録に登録されることにより，病名が認知される。

表1には，東京都農業試験場において公表した新病害について，野菜などの項目および植物の科ごとに類別し，品目名，病名，病原菌あるいは病原ウイルス学名，発表文献（後掲の文献目録に対応），備考を一覧にした。また，病名目録に病原菌追加，宿主追加あるいは参考文献として登録された項目もあわせて示した。詳細は表1の脚注参照。

表1 公表した新病害および新宿主植物

科	品目	病名	病原学名	文献	備考	
【野菜】						
アオイ	オクラ	疫病	<i>Phytophthora nicotianae</i> van Breda de Haan	堀江ら（1989b）		
		半身萎凋病	<i>Verticillium dahliae</i> Klebahn	飯嶋（1983a）		
アブラナ	キャベツ	株腐病	<i>Thanatephorus cucumeris</i> (Frank) Donk	星ら（1997）		
		白さび病	<i>Albugo macrospora</i> (Togashi) Ito	堀江・菅田（1980a）	文献追加	
	キョウナ	萎黄病		<i>Fusarium oxysporum</i> Schlechtendahl:Fries f.sp. <i>conglutinans</i> (Wollenweber) Snyder & Hansen	阿部・堀江（1995）	
			白さび病	<i>Albugo macrospora</i> (Togashi) Ito	堀江・菅田（1980a）	
	コマツナ		炭疽病	<i>Colletotrichum higginsianum</i> Saccardo	堀江ら（1988d）	
			苗立枯病	<i>Rhizoctonia solani</i> Kühn	堀江（1990b）	
			斑葉病	<i>Phoma wasabiae</i> Yokogi	竹内ら（2003c）	
			モザイク病	<i>Cucumber mosaic virus</i>	竹内ら（1997a）	接種による病原性検討
				<i>Turnip mosaic virus</i>	竹内ら（1997a）	接種による病原性初確認
			奇形・白斑症状	アザミウマ類	竹内ら（2000c）	放飼接種による症状再現
	ダイコン	根くびれ病	<i>Aphanomyces raphani</i> Kendrick	平野・飯嶋（1980a）		
	タイサイ	白さび病	<i>Albugo macrospora</i> (Togashi) Ito	堀江・菅田（1980a）	文献追加	
	チンゲンサイ	菌核病	<i>Sclerotinia sclerotiorum</i> (Libert) de Bary	竹内・堀江（1996）		
	ミズナ	しり腐病	<i>Rhizoctonia solani</i> Kühn	栄森・竹内（2004b）		
	ワサビ	灰色かび病	<i>Botrytis cinerea</i> Persoon:Fries	竹内ら（2003b）		
	ウコギ	ウド	萎黄病	<i>Fusarium oxysporum</i> Schlechtendahl:Fries	星ら（2000）	分化型未決定
				<i>Fusarium solani</i> (Martius) Saccardo	本橋・阿部（1960a）	
萎凋病			<i>Verticillium nigrescens</i> Pethybridge	飯嶋（1977）	病原菌追加	
ウリ	ズッキーニ	疫病	<i>Phytophthora nicotianae</i> van Breda de Haan	堀江ら（1993a）		
		菌核病	<i>Sclerotinia sclerotiorum</i> (Libert) de Bary	小野（2004a）		
キク	プリンスメロン	白絹病	<i>Sclerotium rolfsii</i> Saccardo	佐藤（1987a）		
	カミツレ	うどんこ病	<i>Oidium</i> sp.	竹内ら（2005）		
	シュンギク	褪緑症状	シルバーリーフコナジラミ	竹内ら（1994）	放飼接種による症状再現	
	レタス	株枯病	<i>Phoma exigua</i> Desmazières	竹内・堀江（1997b）		
シソ		根腐病	<i>Fusarium oxysporum</i> Schlechtendahl:Fries f.sp. <i>lactucae</i> Matsuo & Motohashi	本橋ら（1960d）	新分化型記載（Matuo and Motohashi, 1967）	
		うどんこ病	<i>Oidium</i> sp.	竹内ら（2005）		
		うどんこ病	<i>Oidium</i> sp.	竹内ら（2005）		
		うどんこ病	<i>Oidium</i> sp.	竹内ら（2005）		
		うどんこ病	<i>Oidium</i> sp.	竹内ら（2005）		
シナノキ	モロヘイヤ	苗立枯病	<i>Rhizoctonia solani</i> Kühn	竹内ら（1995c）		
		灰色かび病	<i>Botrytis cinerea</i> Persoon:Fries	竹内ら（1995b）		
セリ	アシタバ	青枯病	<i>Ralstonia solanacearum</i> (Smith) Yabuuchi et al.	宮岸ら（1996）		
		うどんこ病	<i>Oidium</i> sp.	佐藤ら（1996）		
		疫病	<i>Phytophthora nicotianae</i> van Breda de Haan	堀江・飯嶋（1989b）		
			<i>Phytophthora syringae</i> (Klebahn) Klebahn	堀江・飯嶋（1994b）	病原菌追加	

科	品目	病名	病原学名	文献	備考	
セリ	アシタバ	菌核病	<i>Sclerotinia sclerotiorum</i> (Libert) de Bary	竹内・堀江 (1996)		
		白絹病	<i>Sclerotium rolfsii</i> Saccardo	栄森ら (1995)		
		苗立枯病	<i>Rhizoctonia solani</i> Kühn	久保田ら (1994)	菌群AG-4 (A)	
		灰色かび病	<i>Botrytis cinerea</i> Persoon:Fries	竹内ら (1995b)		
		葉枯病	<i>Septoria dearnessii</i> Ellis & Everhart <i>Septoria</i> sp.	竹内・堀江 (1995b) 竹内・堀江 (1995b)		
	セルリー	葉腐病	<i>Thanatephorus cucumeris</i> (Frank) Donk	星ら (2004)	菌群AG-1 (B)	
		茎枯症	<i>Stemphylium</i> sp.	菅田 (1976a)		
		炭疽病	<i>Colletotrichum acutatum</i> Simmonds ex Simmonds	竹内ら (2000a)		
		苗立枯病	<i>Rhizoctonia solani</i> Kühn	竹内・堀江 (2000a)	菌群AG-4 (A)	
		うどんこ病	<i>Oidium</i> sp.	竹内ら (2005)		
ツルナ	ツルナ	疫病	<i>Phytophthora nicotianae</i> van Breda de Haan	竹内ら (2004)		
		灰色かび病	<i>Botrytis cinerea</i> Persoon:Fries	栄森・竹内 (2004a)		
ナス	ジャガイモ	半身萎凋病	<i>Verticillium dahliae</i> Klebahn	飯嶋 (1981b)		
	トマト	半身萎凋病	<i>Verticillium dahliae</i> Klebahn	飯嶋 (1983a)		
マメ	ナス	褐色斑点病	<i>Thanatephorus cucumeris</i> (Frank) Donk	堀江・飯嶋 (1990c)	菌群AG-2-2 ()	
	エダマメ	茎枯病	<i>Phoma exigua</i> Desmazières	竹内ら (2003a)		
	サヤエンドウ	疫病	<i>Phytophthora nicotianae</i> van Breda de Haan	竹内・堀江 (2000b)		
ユリ	シカクマメ	褐色腐敗病	<i>Lasiodiplodia theobromae</i> (Patouillard) Griffon & Maublanc	小野ら (2004b)		
	ネギ	葉鞘腐敗症	<i>Botrytis squamosa</i> Walker 他	菅田・堀江 (1975)	小菌核腐敗病 他	
【果樹】						
クワ	パラミツ	黒かび病	<i>Rhizopus stolonifer</i> (Ehrenberg:Fries) Vuillemin var. <i>stolonifer</i>	佐藤 (1987a)		
ザクロ	ザクロ	褐斑病	<i>Sphaeropsis</i> sp.	堀江・小林 (1977)		
トケイソウ	パッションフル ーツ	疫病	<i>Phytophthora nicotianae</i> van Breda de Haan	堀江・飯嶋 (1992)		
		円斑病	<i>Septoria passifloricola</i> Punithalingam	久保田ら (1996)		
バラ	カリン	ごま色斑点病	<i>Entomosporium mespili</i> (de Candolle) Saccardo	堀江・小林 (1986)	病原菌種名確定	
		白かび斑点病	<i>Cercospora</i> sp.	堀江・小林 (1982)	現 <i>Mycosphaerella</i> に記載	
	ナシ	ごま色斑点病	<i>Entomosporium mespili</i> (de Candolle) Saccardo	堀江・小林 (1986)		
	ピロニア	ごま色斑点病	<i>Entomosporium mespili</i> (de Candolle) Saccardo	堀江・小林 (1986)		
	ピワ	ごま色斑点病	<i>Entomosporium mespili</i> (de Candolle) Saccardo	堀江・小林 (1986)	病原菌種名確定	
	リンゴ	くもの巣病	<i>Rhizoctonia solani</i> Kühn	竹内・堀江 (1996)	菌群AG-1 (B)	
	ごま色斑点病	<i>Entomosporium mespili</i> (de Candolle) Saccardo	堀江・小林 (1986)			
パンレイシ	パンレイシ	黒かび病	<i>Rhizopus stolonifer</i> (Ehrenberg:Fries) Vuillemin var. <i>stolonifer</i>	佐藤 (1987a)	トゲパンレイシにも発生	
		炭疽病	<i>Colletotrichum gloeosporioides</i> (Penzig) Penzig & Saccardo	佐藤 (1987a)		
【花卉・観葉植物】						
アカネ	サンタンカ	褐斑病	<i>Ascochyta ixorae</i> Kobayashi & Ono	Kobayashi et al. (2005)		
		ブーバルジア	菌核病	<i>Sclerotinia sclerotiorum</i> (Libert) de Bary	堀江・星 (2002)	
			苗立枯病	<i>Rhizoctonia solani</i> Kühn	栄森 (1995b)	菌群AG-4 (A)
			灰色かび病	<i>Botrytis cinerea</i> Persoon:Fries	竹内・堀江 (1994b)	
			葉枯線虫病	<i>Aphelenchoides fragariae</i> (Ritzema Bos) Christie	竹内ら (1999e)	
	モザイク病	<i>Cucumber mosaic virus</i>	栄森ら (1990)			
	ペンタス	葉腐病	<i>Rhizoctonia solani</i> Kühn	竹内ら (1996e)	菌群AG-1 (B)	
	ルクリア	疫病	<i>Phytophthora</i> sp.	久保田まや (2000b)		
	アブラナ	ハボタン	萎黄病	<i>Fusarium oxysporum</i> Schlechtendahl:Fries f.sp. <i>conglutinans</i> (Wollenweber) Snyder & Hansen	堀江ら (1990b)	
	アヤメ	シャガ	黄化腐敗病	<i>Aphanomyces iridis</i> Ichitani & Kodama	飯嶋ら (1987)	
ハナショウブ		紋枯病	<i>Rhizoctonia solani</i> Kühn	竹内・堀江 (1994a)		
アルストロメリア	アルストロメリア	根茎腐敗病	<i>Pythium aphanidermatum</i> (Edson) Fitzpatrick	竹内・堀江 (1999c)		
イワタバコ	グロキシニア	苗立枯病	<i>Rhizoctonia solani</i> Kühn	飯嶋ら (1965)	病名未記載	
	ネマトンツス	灰色かび病	<i>Botrytis cinerea</i> Persoon:Fries	竹内ら (1995d)		
ウコギ	カボック	根腐病	<i>Pythium splendens</i> Braun	久保田 (2000a)	<i>Schefflera arboricola</i> に発生	
オシダ	レザーファン	さび病	<i>Milesina dryopteridis</i> Kamei	柿蔭ら (1988)	種名は堀江 (1998) による	
		葉枯病	<i>Cylindrocladium</i> sp.	神田・飯嶋 (1986)		
		変形菌病	<i>Diderma effusum</i> Kühn	堀江ら (1994a)		
オミナエシ	オミナエシ	半身萎凋病	<i>Verticillium dahliae</i> Klebahn	竹内・堀江 (1995b)	病原型はB群	
キキョウ	カンパニユラ	疫病	<i>Phytophthora</i> sp.	久保田 (2000b)		
	キキョウ	半身萎凋病	<i>Verticillium dahliae</i> Klebahn	竹内・堀江 (1996b)		

科	品目	病名	病原学名	文献	備考	
キク	ウインターコスモス	白絹病	<i>Sclerotium rolfsii</i> Saccardo	竹内・堀江 (1998b)		
	オオバナオケラ	白絹病	<i>Sclerotium rolfsii</i> Saccardo	竹内ら (1995c)		
	ガーベラ	紫斑病	<i>Cercospora gerberae</i> Chupp & Viégas	竹内・堀江 (1999c)		
	ガザニア	葉腐病	<i>Rhizoctonia solani</i> Kühn	竹内・堀江 (1993a)	菌群AG-1 (B)	
	キク	立枯病	半身萎凋病	<i>Rhizoctonia solani</i> Kühn	梶原・菅田 (1971)	培養型 A, B
				<i>Verticillium dahliae</i> Klebahn	飯嶋・三上 (1972b)	
	キンセンカ	半身萎凋病	<i>Verticillium dahliae</i> Klebahn	飯嶋 (1981)	病原菌の形態未記載	
	ゴールデンコイ	葉腐病	<i>Rhizoctonia solani</i> Kühn	竹内・堀江 (1994a)	菌群AG-1 (A)	
	ンフラワー					
	コスモス	半身萎凋病	<i>Verticillium dahliae</i> Klebahn	飯嶋 (1981)	病原菌の形態未記載	
	シャスターデージー	半身萎凋病	<i>Verticillium dahliae</i> Klebahn	竹内・堀江 (1995b)	病原型B群	
	シュコンアスター	菌核病	<i>Sclerotinia sclerotiorum</i> (Libert) de Bary	竹内・堀江 (1999b)		
	セイヨウノコギリソウ	葉腐病	<i>Rhizoctonia solani</i> Kühn	竹内・堀江 (1994a)	菌群AG-1 (A)	
	ダリア	半身萎凋病	<i>Verticillium dahliae</i> Klebahn	竹内・堀江 (1998a)		
	ペニバナ	立枯病	半身萎凋病	<i>Rhizoctonia solani</i> Kühn	竹内・堀江 (1998c)	菌群AG-2-2 (B)
				<i>Verticillium dahliae</i> Klebahn	竹内・堀江 (1996b)	
	ヘリオプシス	白絹病	<i>Sclerotium rolfsii</i> Saccardo	竹内・堀江 (1998b)		
	ヘリクリサム (ムギワラギク)	菌核病	半身萎凋病	<i>Sclerotinia sclerotiorum</i> (Libert) de Bary	竹内・堀江 (1999b)	
				<i>Verticillium dahliae</i> Klebahn	竹内・堀江 (1995b)	病原型B群
	リアトリス	半身萎凋病	<i>Verticillium dahliae</i> Klebahn	竹内・堀江 (1998a)		
	ルドベキア	萎凋病	<i>Fusarium</i> sp.	神田ら (1965)		
	ルリタマアザミ	立枯病	半身萎凋病	<i>Verticillium dahliae</i> Klebahn	竹内・堀江 (1995b)	病原型B群
				<i>Rhizoctonia solani</i> Kühn	竹内ら (1998c)	菌群AG-2-1 ()
キンボウゲ	ヘレボルス	白絹病	<i>Sclerotium rolfsii</i> Saccardo	竹内ら (1998a)	菌群はナス系 (A型)	
			<i>Verticillium dahliae</i> Klebahn	竹内・堀江 (1998a)		
クズウコン	カラテア	円斑病	<i>Sclerotium rolfsii</i> Saccardo	栄森・竹内 (2004)		
			<i>Cylindrocarpon destructans</i> (Zinssmeister) Scholten	竹内ら (2004b)		
			<i>Bipolaris</i> sp.	竹内ら (2001e)		
クマツヅラ	クテナンテ	円斑病	<i>Bipolaris</i> sp.	竹内ら (2001e)		
			<i>Bipolaris</i> sp.	竹内ら (2001e)		
ゴクラクチョウカ	ストレリチア	疫病	<i>Phytophthora nicotianae</i> van Breda de Haan	植松ら (1994)		
コショウ	ベペロミア	白絹病	<i>Phytophthora palmivora</i> (Butler) Butler	植松ら (1994)		
			<i>Cylindrocladium pteridis</i> Wolf	久保田 (2001)		
ゴマノハグサ	オタカンサス	立枯病	<i>Sclerotium rolfsii</i> Saccardo	竹内・堀江 (1993b)	チヂミベペロミアに発生	
			<i>Rhizoctonia solani</i> Kühn	竹内・堀江 (1999a)	菌群AG-4 (A)	
サクラソウ	シクラメン	疫病	<i>Phytophthora</i> sp.	久保田(2000b)		
			<i>Sclerotinia sclerotiorum</i> (Libert) de Bary	竹内ら (1996b)		
			<i>Sclerotium rolfsii</i> Saccardo	竹内ら (1996b)		
			<i>Rhizoctonia solani</i> Kühn	竹内・堀江 (1998c)	菌群AG-1 (B)	
サトイモ	カラジウム	菌核病	<i>Fusarium oxysporum</i> Schlechtendahl:Fries f.sp. <i>cyclaminis</i> Gerlach	菅田 (1964a)		
			<i>Rhizoctonia solani</i> Kühn	飯嶋ら (1965)		
サラセニア	アジュガ	株枯病	<i>Sclerotinia sclerotiorum</i> (Libert) de Bary	佐藤 (1987a)		
			<i>Sclerotium rolfsii</i> Saccardo	佐藤 (1987a)		
			<i>Botrytis cinerea</i> Persoon:Fries	竹内ら (1995d)	<i>S.cannifolium</i> に発生	
			<i>Phytophthora nicotianae</i> van Breda de Haan	久保田 (1993)	ヒトデカズラに発生	
ショウガ	クルクマ	さび斑病	<i>Phoma exigua</i> Desmazières	久保田・平野 (1995)	ホウライシヨウに発生	
			<i>Cylindrocladium theae</i> (Petch) Subram	竹内ら (2005a)		
スベリヒコ	ポーチュラカ	立枯病	<i>Phoma eupyrena</i> Saccardo	竹内・堀江 (1998d)		
			<i>Sclerotium rolfsii</i> Saccardo	竹内・堀江 (1993b)	<i>Ajuga reptans</i> に発生	
スマレ	スミレ	疫病	<i>Rhizoctonia solani</i> Kühn	竹内ら (1996)	菌群AG-1 (B)	
			<i>Colletotrichum acutatum</i> Simmonds ex Simmonds	竹内・堀江 (1997b)	病原菌追加	
スミレ	スミレ	疫病	<i>Acremonium</i> sp. [<i>Plectosporium tabacium</i> (van Beyma) Palm et al.]	竹内ら (1994c)	学名[]はSato et al.(2004)	
			<i>Rhizoctonia solani</i> Kühn	竹内・平野 (1992)	菌群AG-4 (A)	
スミレ	スミレ	疫病	<i>Phytophthora cactorum</i> (Lebert & Cohn) Schroeter	竹内・堀江 (1998f)	パンジーに発生	
			<i>Phytophthora nicotianae</i> van Breda de Haan	竹内・堀江 (1998f)	ピオラに発生	

科	品目	病名	病原学名	文献	備考
ツリフネソウ	インバチエンス	立枯病	<i>Rhizoctonia solani</i> Kühn	飯嶋ら (1965)	
	ハウセンカ	苗立枯病	<i>Rhizoctonia solani</i> Kühn	飯嶋ら (1965)	
トウダイグサ	ポインセチア	立枯病	<i>Rhizoctonia solani</i> Kühn	竹内・堀江 (1997d)	苗立枯病の病名登録あり
		根腐病	<i>Pythium</i> sp.	阿部 (1975)	
ナス	ベチュニア	こうがいかび病	<i>Choanephora cucurbitarum</i> (Berkeley & Ravenel) Thaxter	竹内・堀江 (2000b)	
	ホオズキ	葉腐病	<i>Rhizoctonia solani</i> Kühn	竹内・堀江 (1997d)	菌群AG-1 (B)
		半身萎凋病	<i>Verticillium dahliae</i> Klebahn	飯嶋 (1981)	病原菌の形態未記載
ナデシコ	ムシトリナデシコ	菌核病	<i>Sclerotinia sclerotiorum</i> (Libert) de Bary	竹内・堀江 (1996)	シレネに発生
		白絹病	<i>Sclerotium rolfsii</i> Saccardo	竹内ら (1998b)	
		葉腐病	<i>Rhizoctonia solani</i> Kühn	久保田 (1997)	シレネに発生 菌群AG-2-1 ()
ハナシノブ	シバザクラ	株枯病	<i>Rhizoctonia solani</i> Kühn	竹内ら (1996b)	菌群AG-2-2 (B)
		白絹病	<i>Sclerotium rolfsii</i> Saccardo	竹内ら (1996c)	
	フロックス	斑点病	<i>Stemphylium botryosum</i> Wallroth	竹内・堀江 (1997a)	<i>Septoria drummondii</i> による 斑点病が既登録
ハマミズナ	マツバギク	立枯病	<i>Rhizoctonia solani</i> Kühn	竹内・堀江 (1994a)	菌群AG-4 (A)
		葉腐病	<i>Rhizoctonia solani</i> Kühn	竹内ら (2004a)	菌群AG-1 (B)
バラ	ベニバナダイコンソウ	さび病	<i>Pucciniastrum</i> sp.	柿島ら (1999)	
ヒガンバナ	アマクリナム	褐斑病	<i>Phoma</i> sp.	竹内ら (1994d)	
		炭疽病	<i>Colletotrichum acutatum</i> Simmonds & Simmonds	竹内・堀江 (1997b)	
	キルタンサス	白絹病	<i>Sclerotium rolfsii</i> Saccardo	竹内・堀江 (1996f)	
		灰色かび病	<i>Botrytis cinerea</i> Persoon:Fries	竹内・堀江 (1994b)	
	クンシラン	白絹病	<i>Sclerotium rolfsii</i> Saccardo	菅田 (1969)	
ビャクブ	ビャクブ	炭疽病	<i>Colletotrichum dematium</i> (Persoon:Fries) Grove	竹内ら (2002a)	
			<i>Colletotrichum gloeosporioides</i> (Penzig) Penzig & Saccardo	竹内ら (2002a)	
		灰色かび病	<i>Botrytis cinerea</i> Persoon:Fries	竹内ら (2002a)	
ヒユ	アルターナンセラ	葉腐病	<i>Rhizoctonia solani</i> Kühn	竹内ら (1996e)	菌群AG-1 (B)
	ケイトウ	根腐病	<i>Aphanomyces cochlioides</i> Drechsler	飯嶋ら (1989b)	
ヒルガオ	エボルブルス	灰色かび病	<i>Botrytis cinerea</i> Persoon:Fries	竹内・堀江 (1994b)	
フウロソウ	ゼラニウム	立枯病	<i>Rhizoctonia solani</i> Kühn	竹内・堀江 (1994a)	菌群AG-4 (A)
ベンケイソウ	カランコエ	疫病	<i>Phytophthora</i> sp.	栄森・飯嶋 (1993)	
		灰色かび病	<i>Botrytis cinerea</i> Persoon:Fries	竹内ら (1995)	
マツムシソウ	スカビオサ	灰色かび病	<i>Botrytis cinerea</i> Persoon:Fries	竹内ら (1995)	
マメ	スイートピー	炭疽病	<i>Colletotrichum acutatum</i> Simmonds ex Simmonds	竹内・堀江 (2001b)	
			<i>Colletotrichum truncatum</i> (Schweinitz) Andrus & Moore	竹内・堀江 (2001b)	
ミカン	サザンクロス	疫病	<i>Phytophthora</i> sp.	堀江・飯嶋 (1994b)	
	ポーニア	疫病	<i>Phytophthora</i> sp.	堀江・飯嶋 (1994b)	
ヤシ	ケンチャヤシ	疫病	<i>Phytophthora nicotianae</i> van Breda de Haan	竹内・堀江 (2001a)	
	テーブルヤシ	茎腐病	<i>Gliocladium vermoeseni</i> (Biourge) Thom	堀江・飯嶋 (2004a)	
	フェニックス	褐紋病	<i>Phomopsis phoenicola</i> Traverso & Spessa	竹内・堀江 (1999d)	
		黒つば病	<i>Graphiophora phenicis</i> (Mougeot) Poiteau	佐藤 (1987a)	宿主追加 (セネガルヤシ)
		黒葉枯病	<i>Lasioidiplodia theobromae</i> (Patouillard) Griffon & Maublanc	竹内・堀江 (2000c)	シンノウヤシに発生
		炭疽病	<i>Colletotrichum gloeosporioides</i> (Penzig) Penzig & Saccardo	竹内・堀江 (1999d)	
		苗立枯病	<i>Rhizoctonia solani</i> Kühn	竹内ら (1995e)	シンノウヤシに発生
		ペスタロチア病	<i>Pestalotiopsis palmarum</i> (Cooke) Steyaert	竹内・堀江 (2000c)	
ユキノシタ	アスチルベ	立枯病	<i>Rhizoctonia solani</i> Kühn	竹内・堀江 (1999a)	菌群AG-4 (A)
	ユキノシタ	斑葉病	<i>Phoma exigua</i> Desmazières	竹内・堀江 (1997c)	
ユリ	アルブカ	疫病	<i>Phytophthora nicotianae</i> van Breda de Haan	竹内・堀江 (2000a)	
	ギボウシ	炭疽病	<i>Colletotrichum acutatum</i> Simmonds ex Simmonds	竹内・堀江 (1996b)	コバギボウシなどに発生
	クレマチス	白絹病	<i>Sclerotium rolfsii</i> Saccardo	菅田 (1969)	
	サンダーソニア	疫病	<i>Phytophthora nicotianae</i> van Breda de Haan	竹内・堀江 (2001a)	
		白絹病	<i>Sclerotium rolfsii</i> Saccardo	竹内ら (1995c)	
		根腐病	<i>Pythium irregulare</i> Buisman	竹内ら (2001a)	
			<i>Pythium splendens</i> Braun	竹内ら (2001a)	
	ジャノヒゲ	白絹病	<i>Sclerotium rolfsii</i> Saccardo	竹内・堀江 (1993b)	チャボリュウノヒゲに発生
		炭疽病	<i>Colletotrichum lilicearum</i> (Scjweinitz) Ferraris	竹内・堀江 (1996c)	
	スマイラックス	根腐病	<i>Pythium splendens</i> Braun	久保田 (2000a)	

科	品目	病名	病原学名	文献	備考
ユリ	トリテレイア	疫病	<i>Phytophthora</i> sp.	堀江・飯嶋 (1994c)	
	ノシラン	炭疽病	<i>Colletotrichum liliearum</i> (Scjweinitz) Ferraris	竹内・堀江 (1996b)	
	ルスカス	こうじかび病	<i>Aspergillus niger</i> van Tieghem	竹内ら (2000d)	
		灰色かび病	<i>Botrytis cinerea</i> Persoon:Fries	竹内ら (2001d)	イカダバルスカスに発生
		葉先枯病	<i>Cladosporium cladosporioides</i> (Fresenius) G.A.de Vries		
ラン	アツモリソウ	疫病	<i>Phytophthora cactorum</i> (Lebert & Cohn) Schröter	堀江・飯嶋 (1990c)	
		根黒斑病	<i>Cylindrocarpon destructans</i> (Zinssmeister) Scholten	竹内ら (2004b)	
		疫病	<i>Phytophthora nicotianae</i> van Breda de Haan	堀江・飯嶋 (1989)	
リュウゼツラン	チトセラン	腐敗病	<i>Pythium spinosum</i> Sawada	竹内ら (2002b)	アツバチトセランに発生
	ユッカ	眼点病	<i>Stigmata concentrica</i> (Cooke & Ellis) Deighton	飯嶋 (1979)	アツバキミガヨランに発生
【緑化樹木・グラウンドカバープランツ (木本)】					
アオイ	フヨウ	半身萎凋病	<i>Verticillium dahliae</i> Klebahn	飯嶋 (1981)	病原菌の形態未記載
アカネ	クチナシ	根こぶ線虫病	<i>Meloidogyne incognita</i> (Kofoid & White) Chitwood	竹内ら (1998c)	コクチナシに発生
アケビ	ミツバアケビ	輪紋葉枯病	(所属未定)	堀江 (1982b)	
イチヨウ	イチヨウ	すす斑病	<i>Gonatobotryum apiculatum</i> (Peck) Hughes	堀江ら (1975d)	
イトスギ	イトスギ	くもの巣病	<i>Rhizoctonia solani</i> Kühn	星ら (1995)	モントレイサイプレスに発生 菌群AG-1 (B)
イネ	アズマザサ	さび病	<i>Puccinia longicornis</i> Patouillard & Hariot	Sato and Horie (1975)	宿主追加
	オカメザサ	炭疽病	<i>Colletotrichum</i> sp.	竹内ら (2003)	
ウコギ	アブラチャン	輪紋葉枯病	(所属未定)	堀江 (1980b)	
	ヘデラ	疫病	<i>Phytophthora citrophthora</i> (R.E.Smith & E.H.Smith) Leonian	植松ら (1998)	カナリーキツタに発生
		疫病	<i>Phytophthora drechsleri</i> Tucker	植松ら (1998)	セイヨウキツタに発生
		疫病	<i>Phytophthora nicotianae</i> van Breda de Haan	竹内・堀江 (1996b)	セイヨウキツタに発生
	褐斑病	<i>Guignardia</i> sp.	竹内・堀江 (1998a)		
	灰色かび病	<i>Botrytis cinerea</i> Persoon:Fries	竹内ら (1995b)	宿主追加 (カナリーキツタなど)	
ウルシ	スモークツリー	褐紋病	<i>Pilidium</i> sp.	堀江ら (1977)	
エゴノキ	エゴノキ	褐斑病	<i>Pseudocercospora fukuokaensis</i> (Chupp) Liu & Guo	Nakashima et al. (2004)	宿主追加 (オオバエゴノキ)
		輪紋葉枯病	(所属未定)	堀江 (1982b)	
オトギリソウ	ヒペリカム	くもの巣病	<i>Rhizoctonia solani</i> Kühn	竹内・堀江 (1994a)	菌群AG-1 (B)
		さび病	<i>Melampsora hypericorum</i> Winter	堀江ら (2003c)	
カエデ	エンコウカエデ	輪紋葉枯病	(所属未定)	堀江 (1980a)	
	カエデ類	すすかび斑点病	<i>Cercospora</i> sp.	堀江・小林 (1983a)	
		炭疽病	<i>Colletotrichum gloeosporioides</i> (Penzig) Penzig & Saccardo	堀江・小林 (1982f)	ノルウエーカエデなどに発生。種名検討を要す。
カバノキ	トウカエデ	うどんこ病	<i>Oidium</i> sp.	堀江・菅田 (1985a)	新宿主
	イヌシデ	すす紋病	<i>Cylindrosporella carpini</i> (Libert) Höhnle	堀江・小林 (1983a)	<i>Leptostroma</i> sp. として報告
	クマシデ	葉枯病	<i>Monostichella robergei</i> (Desmazières) Höhnle	堀江ら (1977)	
	シラカンバ	灰斑病	<i>Monostichella</i> sp.	堀江ら (1975d)	
	ハシバミ	すす紋病	<i>Cylindrosporella carpini</i> (Libert) Höhnle	堀江・小林 (1983a)	<i>Leptostroma</i> sp. として報告
キブシ	キブシ	灰斑病	<i>Monostichella coryli</i> (Desmazières) Höhnle	堀江・小林 (1983a)	
		輪紋葉枯病	(所属未定)	堀江 (1980a)	
	ハチジョウキブシ	褐斑病	<i>Pseudocercospora hachijokibushi</i> Nakashima et al.	Nakashima et al. (2004)	新種記載
キョウチクトウ	ツルニチニチソウ	立枯病	<i>Rhizoctonia solani</i> Kühn	竹内ら (2004a)	菌群AG-4 (A)
	ヒメツルニチニチソウ	黒枯病	<i>Phoma exigua</i> Desmazières var. <i>inoxydabilis</i> Boerema & Vegh apud Vegh	竹内ら (1995c)	
	チソウ				
クスノキ	クロモジ	輪紋葉枯病	(所属未定)	堀江 (1980)	
	ヤブニッケイ	もち病	<i>Exobasidium hachijoense</i> Otani et al.	Iijima et al. (1985a)	新種記載
コウヤマキ	コウヤマキ	黄葉病	<i>Cercospora</i> sp.	小林・堀江 (1980)	
シナノキ	ボダイジュ	すすかび病	<i>Cercospora microsora</i> Saccardo	堀江・小林 (1984)	
スイカズラ	アベリア	くもの巣病	<i>Rhizoctonia solani</i> Kühn	竹内ら (2004a)	菌群AG-1 (B)
	ツクバネウツギ	輪紋葉枯病	(所属未定)	堀江 (1982b)	
ツゲ	サルココッカ	白絹病	<i>Sclerotium rolfsii</i> Saccardo	竹内・堀江 (1994b)	
	フッキソウ	褐斑病	<i>Phyllosticta</i> sp.	竹内・堀江 (1998b)	
		紅粒茎枯病	<i>Pseudonectoria pachysandricola</i> Dodge	竹内・堀江 (1993c)	

科	品目	病名	病原学名	文献	備考
ツゲ	フッキソウ	白絹病	<i>Sclerotium rolfsii</i> Saccardo	竹内・堀江 (1994b)	
ツツジ	アセビ	褐斑病	<i>Phyllosticta</i> sp.	堀江・小林 (1981)	
	アメリカイワナンテン	褐斑病	<i>Guignardia</i> sp.	竹内・堀江 (1998a)	
	イチゴノキ	褐斑病	<i>Cercospora molleriana</i> Winter	堀江・小林 (1980f)	
		黒円星病	<i>Discosia</i> sp.	堀江・小林 (1980e)	
	カルミア	褐斑病	<i>Cercospora kalmiae</i> Ellis & Everhart	堀江・小林 (1979b)	
	ネジキ	ベスタロチア病	<i>Pestalotiopsis</i> sp. [<i>P.versicolor</i> (Spegazzini) Steyaert]	堀江ら (1975d)	
ツバキ	ヒサカキ	すすかび病	<i>Cercospora</i> sp.	小林・堀江 (1980)	
	ヒメシャラ	輪紋葉枯病	(所属未定)	堀江 (1980a)	ヒコサンヒメシャラにも発生
ニシキギ	ニシキギ	円星病	<i>Stagonospora euonymicola</i> Kobayashi & Horie	堀江・小林 (1977a)	
ニレ	ケヤキ	輪紋葉枯病	(所属未定)	堀江 (1980a)	
バラ	カナメモチ	疫病	<i>Phytophthora cactorum</i> (Lebert & Cohn) Schröter	堀江・飯嶋 (1990b)	<i>Photinia fraseri</i> にも発生
		ごま色斑点病	<i>Entomosporium mespili</i> (de Candolle) Saccardo	堀江 (1986)	
		灰色かび病	<i>Botrytis cinerea</i> Persoon:Fries	竹内・堀江 (2004b)	
	コゴメウツギ	褐斑病	<i>Cercospora stephanandrae</i> Kobayashi & Horie	堀江ら (1975d)	病原菌新種記載
		輪紋葉枯病	(所属未定)	堀江 (1980a)	
	コデマリ	炭疽病	<i>Colletotrichum gloeosporioides</i> (Penzig) Penzig & Saccardo	堀江・小林 (1982f)	
	コトネアスター	褐斑病	<i>Pseudocercospora cotoneastri</i> (Katsuki & Kobayashi) Deighton	堀江ら (1976c)	宿主追加 (ベニシタンなど)
		くもの巣病	<i>Rhizoctonia solani</i> Kühn	竹内・堀江 (1993a)	菌群AG-1 (B)
	ザイフリボク	ごま色斑点病	<i>Entomosporium mespili</i> (de Candolle) Saccardo	堀江 (1986)	セイヨウザイフリボクなどにも発生 (堀江ら, 1999)
	シャリンバイ	ごま色斑点病	<i>Entomosporium mespili</i> (de Candolle) Saccardo	堀江 (1986)	
	シロヤマブキ	円斑病	<i>Septoria rhodotyphi</i> Höllos	堀江・小林 (1981c)	
	ストランベシヤ	ごま色斑点病	<i>Entomosporium mespili</i> (de Candolle) Saccardo	堀江 (1986)	堀江 (1986)
	ズミ	ごま色斑点病	<i>Entomosporium mespili</i> (de Candolle) Saccardo	堀江 (1986)	エゾノコリンゴに発生
	セイヨウサンザシ	ごま色斑点病	<i>Entomosporium mespili</i> (de Candolle) Saccardo	堀江 (1986)	病原菌種名確定
	ナナカマド類	すすかび病	<i>Cercospora</i> sp.	堀江・小林 (1980f)	セイヨウナナカマドに発生
	ピラカンサ	疫病	<i>Phytophthora cactorum</i> (Lebert & Cohn) Schröter	堀江・飯嶋 (1990b)	
	マメザクラ	輪紋葉枯病	(所属未定)	堀江 (1980a)	
	ユキヤナギ	褐点病	<i>Cylindrosporium spiraeae-thunbergii</i> Miura ex Kobayashi	小林・堀江 (1977b)	
ハンカチノキ	ハンカチノキ	褐斑病	<i>Cercospora</i> sp.	堀江・小林 (1984)	
ブドウ	ツタ	褐色円斑病	<i>Phyllosticta ampeliciada</i> (Engelman) van der Aa	堀江・小林 (1983a)	病名変更
ブナ	スタジイ	炭疽病	<i>Colletotrichum acutatum</i> Simmonds ex Simmonds	竹内・堀江 (1997)	
ミズキ	ハナイカダ	斑点病	<i>Pseudocercospora izuohshimensis</i> Nakashima et al.	堀江・小林 (1984d)	病原菌新種記載 (Nakashima et al., 2004)
	ミズキ類	輪紋葉枯病	(所属未定)	堀江 (1980a)	ハナミズキ, ミズキ, ヤマボウシに発生
メギ	ナンテン	褐斑病	<i>Phyllosticta</i> sp.	竹内・堀江 (1998b)	
モクレン	コブシ	斑点病	<i>Phyllosticta kobus</i> Hennings	堀江ら (1998b)	病原菌再吟味
モチノキ	アオハダ	輪紋葉枯病	(所属未定)	堀江 (1980a)	フウリンウメモドキにも発生
ユキノシタ	ウツギ	さび病	<i>Puccinia longicornis</i> Patouillard & Hariot	Sato and Horie (1975)	病原菌追加
	エスカローニア	すすかび病	<i>Cercospora</i> sp.	堀江・小林 (1980e)	
ユズリハ	ユズリハ	褐斑病	<i>Pseudocercospora daphniphylli</i> (Katsuki & Kobayashi) Deighton	堀江ら (1975b)	
リョウブ	リョウブ	輪紋葉枯病	(所属未定)	堀江 (1982b)	
		褐斑病	<i>Cercospora</i> sp.	堀江・小林 (1983a)	
【飼料作物】					
イネ	ハチジョウススキ	紫斑点病	<i>Stagonospora hachijoensis</i> Takeuchi & Kobayashi	竹内ら (2002)	病原菌新種記載 (Kobayashi et al., 2005)

注) 科名, 品目名: 日本植物病名目録 (日本植物病理学会編, 2000) または日本植物病害大事典 (岸 國平 編, 1998) に準じるが, 一部の品目は一般的に使用されている名を採用した。並びは五十音順とした。

病名: 「症状」または「症」は, 病名が提案されていないことを示す。

病原学名: 日本植物病名目録およびその追録の学名を原則とする。その後, 学名が変更された場合は調査可能な範囲で新学名を採用した。昆虫が原因の場合は和名を掲載した。

文献: 初出文献あるいは主要文献を掲載した。

備考: 特記のない場合は新病害の記載を示す。

2. 病原菌新種名および新分化型一覧

新病害などの研究に伴い、以下の新種または新分化型を記載した。

(1) 新種

1) *Cercospora stephanandrae* Kobayashi et Horie (Kobayashi et al., 1979)

メモ：本種は東京都調布市産の標本をもとにコゴメウツギ褐斑病菌として記載した。本学名は属の改変に従い、*Pseudocercospora stephanandrae* (Kobayashi et Horie) Nakashima et Kobayashiと変更された。

2) *Exobasidium hachijoense* Otani, Kakishima et Iijima (Iijima et al., 1985a)

メモ：本種は東京都八丈町（八丈島）産の標本をもとにヤブニッケイもち病菌として記載した。本属菌は形態的特徴、遺伝子解析などをもとに、属および種の再吟味が行われている。

3) *Pseudocercospora izuohshimensis* C.Nakashima, H.Horie et Tak.Kobayashi (Nakashima et al., 2004)

メモ：本種は東京都大島町（伊豆大島）産の標本をもとにハナイカダ斑点病菌として記載した。

4) *Pseudocercospora hachijokibushi* C.Nakashima, H.Horie et Tak.Kobayashi (Nakashima et al., 2004)

メモ：本種は東京都大島町（伊豆大島）産の標本をもとにハチジョウキブシ褐斑病菌として記載した。

5) *Stagonospora hachijoensis* Takeuchi et Tak. Kobayashi (Kobayashi et al., 2005)

メモ：本種は東京都八丈町（八丈島）産の標本をもとにハチジョウススキ紫斑点病菌として記載した。

(2) 新分化型

1) *Fusarium oxysporum* Schlechtendahl f.sp. *lactucae* Matsuo et Motohashi (Matsuo and Motohashi, 1967)

メモ：本分化型は東京都江戸川区採取の菌株をもとにレタス（サラダナ）根腐病菌として記載した。

園芸作物病害に関する文献目録

1950～2004年に公表した成果・文献などのうち、学術誌に引用可能な文献一覧を次に示す（一部の刊行は2005年）。

本文献目録では、野菜、果樹、花卉・観葉植物、緑化樹木・グラウンドカバープランツ（木本性）、飼料作物、環境課題対応の6区分に類別した。イモ類などの食用作物は文献数が少ないため、野菜に含めた。米麦の病害について1950年代前半に数課題について学会で口頭発表されているが、本目録からは省略した。成果・文献が複数の分野に及ぶ場合は、主となる分野あるいは関連分野すべての分野に採録した。各成果・文献には、著者名、掲載誌の発行年、論文または講演題名、掲載誌名、掲載ページを記した。順は著者名のABC順を優先し、同一著者内では掲載誌の発行年順、共同著者のABC順とした。年にabc・・・を付した文献は、主要成果の概要の項に引用の都合により、通常に掲載順と異なる場合がある。文献題名は原則として発表時の表現に従ったが、一部の旧字については新字体に改めた。

掲載誌は各誌の指定により、また、特定の用語は以下のとおり略記した。

関東病虫研報：関東東山病害虫研究会報（第46集～）、関東東山病害虫研究会年報（第1集～第45集）

菌蕈研報：菌蕈研究所研究報告

日菌報：日本菌学会報

日植病報：日本植物病理学会報

日林論：日本林学会論文集

東京農試研報：東京都農業試験場研究報告

東京公研報：東京都公害研究所研究報告

Eur.J.For.Path.：European Journal of Forest Pathology

J.Gen.Plant.Pathol.：日本植物病理学会英文誌

Trans.mycol.Soc.Japan.：日本菌学会報英文誌（現 Mycoscience）

農及園：農業および園芸（農業及園芸）

（講要）：講演要旨

1．野菜類の病害に関する文献目録

- 1-001) 阿部善三郎・飯嶋 勉・平野壽一・本橋精一 (1961a) 白菜モザイク病に対するピニロン寒冷紗被覆栽培の効果．関東病虫研報 8：25．
- 1-002) 阿部善三郎・飯嶋 勉・平野壽一・本橋精一 (1961b) メチルプロマイドによる床土消毒．関東病虫研報 8：31．
- 1-003) 阿部善三郎・飯嶋 勉・平野壽一・本橋精一 (1961c) ピニロン寒冷紗被覆によるハクサイ病害の防除．植物防疫 15(9)：402-404．
- 1-004) 阿部善三郎・本橋精一 (1961d) Teepol 等によるTMVの不活性化．(講要) 日植病報 26(2)：66．
- 1-005) 阿部善三郎・飯嶋 勉・平野壽一・本橋精一 (1962a) トマト葉かび病の防除．関東病虫研報 9：30．
- 1-006) 阿部善三郎・飯嶋 勉・平野壽一・本橋精一 (1962b) ビニールに付着したトマト葉かび病菌に対する各種殺菌剤の効果．植物防疫 16(2)：67-68．
- 1-007) 阿部善三郎・平野壽一・本橋精一 (1963a) クロールピクリンによるキュウリつる割病の防除．関東病虫研報10：16．
- 1-008) 阿部善三郎・平野壽一・本橋精一 (1963b) クロールピクリンの低温時処理．(講要) 日植病報 28(5)：309．
- 1-009) 阿部善三郎・本橋精一 (1963c) キュウリつるわれ病菌の寄主体侵入部位，とくに地上部からの侵入について．(講要) 日植病報 28(2)：71．
- 1-010) 阿部善三郎・平野壽一・本橋精一 (1964a) クロールピクリンのキュウリつる割病に対する防除効果．東京農試研報 3：53-62．
- 1-011) 阿部善三郎・平野壽一・本橋精一 (1964b) クロールピクリンによるキュウリつる割病の防除 (第2報)．関東病虫研報11：34．
- 1-012) 阿部善三郎・平野壽一・本橋精一 (1964c) 低温時のクロールピクリンによる土壌処理．植物防疫 18(2)：63-66．
- 1-013) 阿部善三郎・本橋精一 (1966) 晩秋キュウリのモザイク病について．(講要) 日植病報 32(5)：319．
- 1-014) 阿部善三郎・藪本 修・高村芳壽・朝長信次 (1984) クロールピクリン剤のマルチ畦内消毒法によるナス半身萎ちょう病の防除効果．関東病虫研報31：44-45．
- 1-015) 阿部善三郎・堀江博道 (1988) コマツナ萎黄病 (新称) について．(講要) 日植病報 54(3)：352．
- 1-016) 阿部善三郎・小沢 聖・桜井文隆・和泉吉隆 (1989) コマツナ萎黄病に対するコマツナ等各品種の抵抗性．関東病虫研報36：65-67．
- 1-017) 阿部善三郎・堀江博道 (1995) コマツナ萎黄病に関する研究．東京農試研報 26：23-49．
- 1-018) 新井 茂・菅田重雄・横浜正彦 (1964) ツケナ根こぶ病に対するPCNB液剤の効果と経済性．関東病虫研報11：41．
- 1-019) 新井 茂・菅田重雄・横浜正彦・竹田美恵子 (1965) シュンギク炭そ病に対する散布殺菌剤の効果について．関東病虫研報12：47-48．
- 1-020) 浅利 覚・堀江博道・中澤靖彦 (1994) 関東東山地区におけるDMI剤耐性キュウリうどんこ病菌の発生状況．関東病虫研報 41：69-75．
- 1-021) 栄森弘己・飯嶋 勉・堀江博道 (1995) アシタバ, カラー及びハマオモトの白絹病 (新称)．関東病虫研報42：141-142．
- 1-022) 栄森弘己・小野 剛・大林隆司 (2003) *Rhizoctonia solani* によるシカクマメ実腐病 (新称) の発生．関東病虫研報

50 : 55-56 .

- 1-023) 栄森弘己・竹内 純 (2004a) ツルナ灰色かび病 (新称) の発生 . 関東病虫研報 51 : 59-60 .
- 1-024) 栄森弘己・竹内 純 (2004b) *Rhizoctonia solani* によるミズナしり腐病 (新称) の発生 . 関東病虫研報 51 : 61-62 .
- 1-025) 橋本良子・米山徳造・平野壽一 (1998) 殺線虫剤ホスチアゼートのキュウリ作物への吸収特性 . 東京農試研報 29 : 15-19 .
- 1-026) 平野壽一・飯嶋 勉・本橋精一 (1965a) サツマイモの潰瘍性病害について . (講要) 日植病報 30(2) : 101-102 .
- 1-027) 平野壽一・本橋精一 (1965b) クロールピクリンによるキュウリつる割病の防除 (第3報) . 関東病虫研報12 : 36 .
- 1-028) 平野壽一・安藤延夫・阿部善三郎 (1973) レタスのすそ腐病の発生と防除 . (講要) 日植病報 39(3) : 202 .
- 1-029) 平野壽一 (1974) キュウリ病害に対する新種子消毒剤の効果 . 関東病虫研報21 : 31 .
- 1-030) 平野壽一・飯嶋 勉・山田良道 (1975) カンラン根こぶ病に対する各種薬剤の効果 . 関東病虫研報22 : 50 .
- 1-031) 平野壽一・飯嶋 勉 (1976) *Aphanomyces euteiches* Drechsler の遊走子形成法とエンドウに対する接種法 . (講要) 日植病報 42(1) : 66-67 .
- 1-032) 平野壽一・飯嶋 勉 (1977) カンラン根こぶ病に対するダコニール粉剤10の効果 . 関東病虫研報24 : 43 .
- 1-033) 平野壽一 (1978) シルバーストライプ入り黒マルチによるアブラムシ伝搬性ウイルス病の防除 . 関東病虫研報25 : 47 .
- 1-034) 平野壽一・飯嶋 勉 (1979) 東京都におけるダイコン根部入れ墨症(べと病)の発生 . (講要) 日植病報 45(1) : 122-123 .
- 1-035) 平野壽一・飯嶋 勉 (1980a) ダイコン根くびれ病とその防除 . 東京農試研報 13 : 14-30 .
- 1-036) 平野壽一・飯嶋 勉 (1980b) ダイコン根くびれ病とその対策 . (講要) 日植病報 46(1) : 108-109 .
- 1-037) 平野壽一・堀江博道 (1985) マルチ資材利用によるトマトモザイク病, ダイコンモザイク病及びイチゴ灰色かび病の防除 . 関東病虫研報 32 : 249-250 .
- 1-038) 平野壽一・堀江博道・内藤新祐 (1986a) 同時作業機によるサツマイモ紫紋羽病の防除 . 関東病虫研報 33 : 54-55 .
- 1-039) 平野壽一・堀江博道・高村芳寿 (1986b) ウド軟化茎の腐敗症状の防除 . 関東病虫研報 33 : 134-135 .
- 1-040) 堀江博道・菅田重雄 (1978a) コマツナ白さび病菌のアブラナ科植物に対する病原性 . 関東病虫研報 25 : 50 .
- 1-041) 堀江博道・菅田重雄 (1978b) コマツナ白さび病の発生状況と防除薬剤 . 関東病虫研報 25 : 51-52 .
- 1-042) 堀江博道・菅田重雄 (1978c) コマツナ白さび病の発生状況と防除について . 今月の農薬 22(10) : 1-5 .
- 1-043) 堀江博道・菅田重雄 (1978d) コマツナ白さび病菌の宿主範囲 . (講要) 日植病報 44(1) : 106 .
- 1-044) 堀江博道・菅田重雄・阿部善三郎・秋間荘一 (1978e) 東京におけるアブラナ科野菜白さび病の発生状況 . (講要) 日植病報 44(3) : 363 .
- 1-045) 堀江博道・菅田重雄 (1980a) コマツナ白さび病の生態 . 東京農試研報 13 : 31-47 .
- 1-046) 堀江博道・菅田重雄 (1980b) コマツナ白さび病多発畑に栽培した各種アブラナ科野菜の発病状況 . 関東病虫研報 27 : 63-64 .
- 1-047) 堀江博道・菅田重雄 (1981) コマツナ炭そ病菌の宿主範囲 . (講要) 日植病報 47 (3) : 371 .
- 1-048) 堀江博道・菅田重雄 (1982a) コマツナ炭そ病菌に対する各種アブラナ科野菜の感受性 . 関東病虫研報 29 : 75-76 .
- 1-049) 堀江博道・菅田重雄・小菅悦男 (1982b) 炭そ病及び白さび病に対するアブラナ科「中国野菜」の感受性 . 関東病虫研報 29 : 77-79 .
- 1-050) 堀江博道・菅田重雄 (1983) コマツナ白さび病の生態と防除 . 農及園 58(3) : 437-442 .
- 1-051) 堀江博道・菅田重雄 (1984) 東京都におけるコマツナ炭そ病の発生消長 . 関東病虫研報 31 : 67-68 .
- 1-052) 堀江博道・菅田重雄 (1986) コマツナ炭そ病の発病に関する分生子濃度, 温度並びに湿度の影響 . 関東病虫研報 33 : 107 .
- 1-053) 堀江博道・本橋恒樹・飯嶋 勉 (1987) 東京都の6種園芸作物から分離された *Phytophthora nicotianae* var. *parasitica* . (講要) 日植病報 54(1) : 126 .
- 1-054) 堀江博道 (1988a) トウモロコシさび病と太陽熱利用 今月の農業 32(6) : 111-113 .
- 1-055) 堀江博道・飯嶋 勉 (1988b) *Thanatephorus cucumeris* AG-2-2によるナス褐色斑点病の発生 . (講要) 日植病報

54(3) : 352-353 .

- 1-056) 堀江博道・粕谷章敬・飯嶋 勉 (1988c) 東京都におけるトウモロコシさび病の発生と太陽熱利用による伝染源根絶の試み . 関東病虫研報 35 : 34-35 .
- 1-057) 堀江博道・菅田重雄・阿部善三郎 (1988d) コマツナ炭そ病に関する研究 . 東京農試研報 21 : 189-237 .
- 1-058) 堀江博道・平野寿一・飯嶋 勉 (1989a) *Phytophthora cactorum* による軟化ウドの疫病 (新称) . (講要) 日植病報 55(1) : 120 .
- 1-059) 堀江博道・飯嶋 勉 (1989b) *Phytophthora nicotianae* var. *parasitica* によるオクラ , アシタバ , ドラセナ , パッションフルーツの疫病 (新称) . (講要) 日植病報 55(4) : 494-495 .
- 1-060) 堀江博道 (1990a) コマツナ炭そ病の発生生態と防除 . 植物防疫 44(2) : 67-70 , 口絵写真 .
- 1-061) 堀江博道 (1990b) コマツナの病害 . 植物防疫 44(9) : 431-434 .
- 1-062) 堀江博道・飯嶋 勉 (1990c) *Thanatephorus cucumuris* (*Rhizoctonia solani* AG-2-2) によるナス褐色斑点病の発生 . 東京農試研報 22 : 81-96 .
- 1-063) 堀江博道・飯嶋 勉・佐藤豊三 (1990d) 伊豆諸島および小笠原諸島において採集された炭そ病菌とその宿主植物 . 菌草研報 28 : 267-275 .
- 1-064) 堀江博道・平野壽一・飯嶋 勉 (1993a) 軟化栽培ウドの疫病及びその病原菌 . 東京農試研報 25 : 1-24 .
- 1-065) 堀江博道・竹内 純 (1993b) ウド軟化茎に対する各種疫病菌の病原性 . 関東病虫研報 40 : 109-111 .
- 1-066) 堀江博道・竹内 純 (1993c) ウド疫病 , 菌核病及び白絹病の発病温度 . 関東病虫研報 40 : 113-115 .
- 1-067) 堀江博道・萩原博光・山本幸憲・平野壽一 (1994a) モロヘイヤ及びレザーファンの変形菌病 (新称) . 関東病虫研報 41 : 127-128 .
- 1-068) 堀江博道・飯嶋 勉 (1994b) ネリネ , サザンクロス及びアシタバの疫病 . (講要) 日植病報 60(3) : 342 .
- 1-069) 堀江博道・中澤靖彦・竹内 純・吉村聰志・井川 茂 (1994c) 東京都におけるDMI剤耐性キュウリうどんこ病菌の発生及び同剤使用中止による感受性回復の試み . 関東病虫研報 41 : 87-91 .
- 1-070) 堀江博道・竹内 純 (1994d) 軟化栽培ウドに発生する疫病の生態と防除 . 植物防疫 48(6) : 245-247 , 口絵写真 .
- 1-071) 堀江博道・竹内 純・佐藤豊三・鈴木秀治・渡辺建司 (1994e) 東京都におけるミント類さび病の発生と病原菌の宿主範囲 . 関東病虫研報 42 : 153-156 .
- 1-072) 堀江博道・佐藤豊三・竹内 純 (1995) アブラナ科野菜炭そ病菌の分類学的所属 . (講要) 日植病報 61(3) : 218 .
- 1-073) 堀江博道 (1997a) 軟弱野菜に発生する病害虫 . 軟弱野菜の新技术(東京近郊野菜技術研究会編) . 農耕と園芸 1997年6月号別冊 : 22-28 .
- 1-074) 堀江博道・山田正和・中澤靖彦・合田健二・関谷銃造 (1997b) 関東東山地域におけるジエトフェンカルブ混合剤耐性灰色かび病菌の発生状況 . 関東病虫研報 44 : 91-95 .
- 1-075) 堀江博道・合田健二・関谷銃造・山田正和・中澤靖彦 (1998) 関東東山地域におけるジエトフェンカルブ混合剤耐性灰色かび病菌の発生状況 . 今月の農業 42(1) : 80-84 .
- 1-076) 堀江博道・佐藤幸生・栄森弘己・南 晴文 (2003) 2000~2001年に伊豆大島において記録した有用植物の病害 . 関東病虫研報 50 : 113-116 .
- 1-077) 星 秀男・堀江博道・飯嶋 勉 (1995) *Thanatephorus cucumeris* によるキャベツ株腐病 . (講要) 日植病報 61(3) : 218-219 .
- 1-078) 星 秀男・堀江博道・平野壽一 (1996) 春どりキャベツ株腐病に關与する *Rhizoctonia solani* の菌群 . (講要) 日植病報 62(6) : 607 .
- 1-079) 星 秀男・堀江博道・飯嶋 勉 (1997) 初夏どりキャベツに多発生した株腐病及びその病原菌 . 東京農試研報 27 : 17-46 .
- 1-080) 星 秀男 (1998) 初夏どりキャベツに発生した株腐病の発生生態と防除 . 農耕と園芸 53(8) : 168-169 .
- 1-081) 星 秀男・堀江博道・青木孝之 (2000) *Fusarium oxysporum* によるウド萎黄病の発生 (病原追加) . (講要) 日植

病報 66(3) : 273-274 .

- 1-082) 星 秀男・堀江博道 (2004) アシタバ葉腐病菌の完全世代 *Thanatephorus cucumeris* の形成確認 . 関東病虫研報 51 : 25-28 .
- 1-083) 井田昭典・飯嶋 勉・小菅悦男 (1976) トマト半身萎ちょう病抵抗性品種の育成 (第1報) 抵抗性素材とその特性について . (講要) 園芸学会 昭51春季大会要旨 : 214-215 .
- 1-084) 飯嶋 勉 (1962a) 軟化ウド・ミツバの病害と防ぎ方 . 植物防疫 20 : 447-449 .
- 1-085) 飯嶋 勉・阿部善三郎・平野壽一・本橋精一 (1962b) 接木苗によるトマト萎凋病の防除 . (講要) 日植病報 27(2) : 69 .
- 1-086) 飯嶋 勉・本橋精一 (1962c) ウド菌核病の病原菌について . (講要) 日植病報 27(5) : 272 .
- 1-087) 飯嶋 勉・本橋精一 (1963a) 接木苗によるトマト萎ちょう病の防除 . 農及園 38(8) : 79-80 .
- 1-088) 飯嶋 勉・本橋精一 (1963b) ウド菌核病による冷蔵根株の腐敗防止 . (講要) 日植病報 28(5) : 311-312 .
- 1-089) 飯嶋 勉・本橋精一 (1964) トマト萎凋病防除試験 . 関東病虫研報 11 : 35 .
- 1-090) 飯嶋 勉・神田 多・本橋精一 (1965) トマト葉かび病, キュウリうどんこ病に対するジクロンロッドの効果 . 関東病虫研報 12 : 27 .
- 1-091) 飯嶋 勉 (1967a) 夏キュウリ炭疽病の防除 . 関東病虫研報 14 : 40 .
- 1-092) 飯嶋 勉 (1967b) 東京都におけるキャベツ萎黄病の発生について . (講要) 日植病報 33(5) : 346-347 .
- 1-093) 飯嶋 勉・神田 多 (1967c) ピロプラス属菌の一種によるセルリーの被害 . 関東病虫研報 14 : 51-52 .
- 1-094) 飯嶋 勉 (1968a) キャベツ萎黄病の発生と防除 . 植物防疫 22(10) : 432-436 .
- 1-095) 飯嶋 勉・細田恵三 (1968b) キャベツ萎黄病の防除薬剤 . (講要) 日植病報 34(5) : 373 .
- 1-096) 飯嶋 勉・栗原一雄 (1968c) キャベツ萎黄病の防除に関する試験 第1報 東京都における発生状況 . 関東病虫研報 15 : 44 .
- 1-097) 飯嶋 勉・栗原一雄 (1968d) キャベツ萎黄病の伝染経路 . (講要) 日植病報 34(3) : 169 .
- 1-098) 飯嶋 勉 (1969a) キャベツ萎黄病の種子消毒 . 関東病虫研報 16 : 37 .
- 1-099) 飯嶋 勉・細田恵一 (1969b) キャベツ萎黄病の防除に関する試験 第3報 クロルピクリンおよびガスパによる本畑消毒の効果と経済性 . 関東病虫研報 16 : 37-38 .
- 1-100) 飯嶋 勉 (1970a) カンラン萎黄病の防除 . 農及園 45(7) : 1097-1102 .
- 1-101) 飯嶋 勉・小林孝則 (1970b) カンラン萎黄病の防除に関する試験 第4報 市販品種の抵抗性 . 関東病虫研報 17 : 38 .
- 1-102) 飯嶋 勉・小林孝則 (1970c) カンラン萎黄病の防除に関する試験 第5報 育成中の抵抗性品種の実用性 . 関東病虫研報 17 : 39 .
- 1-103) 飯嶋 勉 (1971) カンラン萎黄病の防除に関する試験 . 東京農試研報 5 : 7-36 .
- 1-104) 飯嶋 勉 (1973a) カンラン萎黄病の防除に関する試験 第6報 都下11月どり用の抵抗性品種 . 関東病虫研報 20 : 36 .
- 1-105) 飯嶋 勉 (1973b) トマト半身萎ちょう病および萎ちょう病に対するペノミル剤の防除効果 . 関東病虫研報 20 : 89 .
- 1-106) 飯嶋 勉 (1973c) トマト半身萎ちょう病抵抗性品種の抵抗性育種素材 . (講要) 日植病報 39(3) : 199 .
- 1-107) 飯嶋 勉・阿部善三郎 (1973d) トマト半身萎ちょう病の発生 (講要) . 日植病報 39(2) : 131 .
- 1-108) 飯嶋 勉 (1974) 品種による防除 ~東京都におけるカンラン萎黄病防除の事例から~ . 7回 日本植物病理学会 土壌伝染病談話会講演要旨集 : 69-74 .
- 1-109) 飯嶋 勉 (1976a) トマト半身萎ちょう病の発病に及ぼす数種 *Fusarium* 属菌の影響 . 関東病虫研報 23 : 43-44 .
- 1-110) 飯嶋 勉 (1976b) トマト半身萎ちょう病の抵抗性検定法 . (講要) 日植病報 42(3) : 339-340 .
- 1-111) 飯嶋 勉 (1977) ウドおよびプリンスメロンから分離された *Verticillium nigrescens* Pethybridge . (講要) . 日植病報 43(3) : 343 .
- 1-112) 飯嶋 勉・平野壽一 (1979a) *Aphanomyces raphani* 接種によるダイコンさめ肌症の再現 . 関東病虫研報 26 : 46 .

- 1-113) 飯嶋 勉・平野壽一 (1979b) *Aphanomyces* sp. とされるダイコンの根部亀裂褐変症。(講要) 日植病報 45(1) : 123 .
- 1-114) 飯嶋 勉 (1980a) パーティシリウム菌の分類と生活史 ~ 研究の現状と今後の課題. 日本植物病理学会 10回 土壌伝染病談話会講演要旨集 : 19-25 .
- 1-115) 飯嶋 勉 (1980b) 国内産 半身萎ちよう病菌株の各種作物に対する寄生性 (講要). 日植病報 46(1) : 109 .
- 1-116) 飯嶋 勉 (1980c) トマトに継代接種した普通系半身萎ちよう病菌の病原性の変異.(講要) 日植病報 46(3) : 395 .
- 1-117) 飯嶋 勉・平野壽一 (1980d) *Aphanomyces raphani* によるダイコンの根部異常症状. 植物防疫 34(7) : 299-302 .
- 1-118) 飯嶋 勉 (1981a) 国内産 *Verticillium* 病菌の種名.(講要) 日植病報 47(1) : 131 .
- 1-119) 飯嶋 勉 (1981b) 東京都における各種パーティシリウム病の発生状況と新病害5種.(講要) 日植病報 47(3) : 379 .
- 1-120) 飯嶋 勉・平野壽一 (1981c) ダイコン根くびれ病抵抗性の品種間差. 関東病虫研報28 : 68 .
- 1-121) 飯嶋 勉・田中 寛 (1981d) パーティシリウム病研究の現状と今後の課題. 植物防疫 35(3) : 137-140 .
- 1-122) 飯嶋 勉・富田千恵子 (1982) *Verticillium dahliae* 菌核の多量形成法.(講要) 日植病報 48(1) : 133 .
- 1-123) 飯嶋 勉 (1983a) トマト半身萎ちよう病に関する研究. 東京農試研報 16 : 63-128 .
- 1-124) 飯嶋 勉 (1983b) 我が国におけるパーティシリウム病の発生現状. 植物防疫 37(3) : 89-95 .
- 1-125) 飯嶋 勉 (1987) トマト半身萎ちよう病に関する研究.(日本植物病理学会学会賞受賞研究要旨) 日植病報 53(3) : 282-284 .
- 1-126) 石塚まや・竹内 純・平野壽一・柴森弘己・堀江博道 (1991) キャベツ根こぶ病に対する各種薬剤の効果. 関東病虫研報 38 : 69-70 .
- 1-127) 石塚まや・平野壽一 (1992) コマツナ萎黄病に対する土壌拮抗菌の効果. 関東病虫研報 39 : 107-109 .
- 1-128) 河野敏郎・星 秀男・高橋幸吉・堀江博道・高橋義行 (1998) トマト黄化えそウイルス (TSWV) によるシネラリア, マリーゴールドおよびナスの黄化えそ病 (新称).(講要) 日植病報 64(6) : 597-598 .
- 1-129) 木曾雅昭・平野壽一・飯嶋 勉 (1980) ダイコン根くびれ病の薬剤防除. 関東病虫研報 27 : 57 .
- 1-130) 小菅悦男・飯嶋 勉・井田昭典 (1976) トマト半身萎ちよう病抵抗性品種の育成 (第2報) 複合抵抗性新素材「NFVR」について.(講要) 園芸学会 昭51春季大会要旨 : 216-217 .
- 1-131) 小菅悦男・飯嶋 勉・井田昭典 (1977) トマト半身萎ちよう病抵抗性育種に関する試験 ~ NFVR 固定系および VR 固定系の育成経過 ~ . 東京農試研報 10 : 3-29 .
- 1-132) 久保田まや・堀江博道・平野壽一 (1994) *Rhizoctonia solani* によるアシタバの葉腐病及び苗立枯病 (新称). 関東病虫研報 41 : 129-131 .
- 1-133) 久保田まや・竹内 純・山田正和・中澤靖彦・堀江博道 (1997) 東京都におけるジエトフェンカルブ混合剤耐性灰色かび病菌の発生状況. 関東病虫研報 44 : 103-105 .
- 1-134) 栗原千秋・浅沼秀一・飯嶋 勉 (1971) 三宅島におけるエンドウの病害と防除. 関東病虫研報18 : 28 .
- 1-135) 栗原一雄・飯嶋 勉 (1968) キャベツ萎黄病の防除に関する試験 第2報 品種と発病 (その1). 関東病虫研報15 : 45 .
- 1-136) 増尾 清 (1962) 消石灰の全層植溝施用によるトマト萎ちよう病の防除. 関東病虫研報 9 : 31 .
- 1-137) 松尾卓見・本橋精一 (1966) チシャ根腐病の病原菌 *Fusarium oxysporum* f.sp.*lactucae* n.f.について.(講要) 日植病報 32(5) : 315 .
- 1-138) Matuo, T. and S.Motohashi (1967) On *Fusarium oxysporum* f.sp. *lactucae* n.f. causing root rot of lettuce. Trans.mycol.Soc.Japan 8(1) : 13-15 .
- 1-139) 宮岸壮樹・熊倉 貴・堀江博道・牧野孝宏・瀧川雄一 (1996) アシタバおよびデルフィニウムの青枯病. 日植病報 62(6) : 612 .
- 1-140) 森脇文治・大久保博人・堀江博道・佐藤豊三・西山幸司 (1996) 反復DNA配列を使って比較した *Colletotrichum higginsianum* Sacc. と *C.gloeosporioides* (Penz.) Penz. et Sacc.との違い. 日植病報 62(6) : 610 .

- 1-141) 森脇丈治・大久保博人・堀江博道・粕山新二・佐藤豊三 (1997) 任意配列プライマー-PCR法を用いたアブラナ科作物炭疽病 *Colletotrichum higginsianum* と *C.gloeosporioides* との遺伝子型検定 . 日植病報 63(5) : 395-398 .
- 1-142) 本橋精一 (1951) 新有機殺菌剤 Parzate の効果 . 植物防疫 5(4) : 159 .
- 1-143) 本橋精一 (1952a) 春夏における大根モザイク病の発生について . (講要) 日植病報 16(3-4) : 151 .
- 1-144) 本橋精一 (1952b) 都下に於ける蕃茄及び大根モザイク病の病原ウイルスについて . (講要) 日植病報 17(1) : 36 .
- 1-145) 本橋精一 (1953a) トマトにおける有翅アブラムシの飛来消長とモザイク病の発生 . (講要) 日植病報 18(1-2) : 78 .
- 1-146) 本橋精一・玉川敏男・海老沢和一 (1953b) 新有機殺菌剤パーゼートの各種病害に対する効果 . 東京農試研報 1 : 53-56 , 図版 .
- 1-147) 本橋精一・梅澤幸治 (1954a) 大根モザイク病の発病程度及び発病時期と大根収量との関係 . 関東病虫研報 1 : 27 .
- 1-148) 本橋精一・横浜正彦・土方 智 (1954b) 本年多発生を見たキウリ黒星病 . 植物防疫 8(10) : 431-435 .
- 1-149) 本橋精一・阿部善三郎 (1955a) シストックスによる大根のアブラムシ類とモザイク病の防除 . 植物防疫 9(6) : 228-230 .
- 1-150) 本橋精一・小川照雄・阿部好治 (1955b) 十字科蔬菜根瘤病菌の発病地における分布について . (講要) 日植病報 19(3-4) : 187 .
- 1-151) 本橋精一・横浜正彦 (1955c) キウリ炭疽病 , 及び露菌病の発生と気象との関係 . 関東病虫研報 2 : 29 .
- 1-152) 本橋精一・土方 智 (1956a) 土壌殺菌としての石灰窒素に関する 2 , 3 の知見 . (講要) 日植病報 21(3-4) : 133 .
- 1-153) 本橋精一・土方 智・小川照雄 (1956b) 土壌消毒剤としての石灰窒素 . 東京農試特別報告 12 : 105-115 .
- 1-154) 本橋精一・土方 智・小川照雄 (1956c) 漬菜根瘤病に対するブラシコール剤の効果 . 農及園 31(9) : 1269-1270 .
- 1-155) 本橋精一・土方 智 (1957a) キウリ苗木病害の薬剤防除 . 関東病虫研報 4 : 37 .
- 1-156) 本橋精一・土方 智・小川照雄 (1957b) ツケナ根瘤病防除に関する研究 . 東京農試研報 2 : 63-91 , 図版 .
- 1-157) 本橋精一・土方 智・小川照雄 (1957c) ツケナ根瘤病の薬剤防除 . (講要) 日植病報 22(1) : 24 .
- 1-158) 本橋精一・阿部善三郎・平野壽一 (1958) 普通噴霧機による濃厚液少量散布について . 関東病虫研報 5 : 70 .
- 1-159) 本橋精一・阿部善三郎 (1959a) トマト萎ちょう病菌の寄生性について . (講要) 日植病報 24(1) : 24-25 .
- 1-160) 本橋精一・阿部善三郎 (1959b) 都下におけるキウリ , トマトの病害防除 (実態調査) . (講要) 日植病報 24(1) : 38 .
- 1-161) 本橋精一・阿部善三郎 (1959c) 低温時におけるクロールピクリンによる床土消毒 . (講要) 日植病報 24(1) : 41 .
- 1-162) 本橋精一・阿部善三郎・平野壽一 (1959d) トマト萎凋病菌の生育に及ぼす消石灰の影響 . 関東病虫研報 6 : 32 .
- 1-163) 本橋精一・伊藤佳信・阿部善三郎 (1959e) トマト萎ちょう病の発生とネコブセンチュウとの関係 . (講要) 日植病報 24(1) : 25 .
- 1-164) 本橋精一・阿部善三郎 (1960a) ウドの萎黄病 (新称) . (講要) 日植病報 25(5) : 240 .
- 1-165) 本橋精一・阿部善三郎・平野壽一 (1960b) クロールピクリンによる床土消毒 . 関東病虫研報 7 : 40 .
- 1-166) 本橋精一・阿部善三郎・平野壽一 (1960c) トマト種子に付着したTMVの不活性化 . (講要) 日植病報 25(1) : 19 .
- 1-167) 本橋精一・阿部善三郎・小川照雄 (1960d) レタスの根ぐされ病 (仮称) . (講要) 日植病報 25(1) : 47 .
- 1-168) 本橋精一・横浜正彦・河合省三・小川照雄・平野壽一 (1960e) トマト葉かび病に対する各種散布薬剤の効果比較 . 関東病虫研報 7 : 34 .
- 1-169) 本橋精一・阿部善三郎・飯嶋 勉・平野壽一 (1961) 白菜ウイルス病の発生消長 (講要) . 日植病報 26(2) : 66 .
- 1-170) 本橋精一 (1964a) クロールピクリンの使用法 . (特別講演要旨) 関東病虫研報 11 : 5-7 .
- 1-171) 本橋精一・阿部善三郎・飯嶋 勉・平野壽一・横浜正彦 (1964b) トマト萎ちょう病に関する研究 . 東京農試研報 3 : 27-51 , 図版 .
- 1-172) 本橋精一 (1970) 小笠原諸島における農作物病害虫の現状と問題点 . (特別講演要旨) 関東病虫研報 17 : 2-3 .
- 1-173) 永澤 實・河合省三・本橋精一 (1961) 殺線虫剤の低温時の処理 . 植物防疫 15(2) : 64-68 .
- 1-174) 馴松市郎兵衛・安藤圭一・白濱賢一・本橋精一・松岡三郎助・土持崎一郎・近藤茂雄・石川 實・松村欣一・當麻邦彦・島田三郎・小座元盛次・青柳恒夫・栗原茂次・井田昭典 (1953a) 東京都に於ける昭和27年度大根モザイク病

総合防除展示の結果について。(講要)日植病報 17(3-4):165.

- 1-175) 馴松市郎兵衛・白濱賢一・本橋精一(1953b)大根モザイク病に関する研究.東京農試研報 1:1-20, 図版.
- 1-176) 馴松市郎兵衛(1979)東京都特産農作物について 第 輯 練馬大根とその病害虫.東京都植物防疫雑草防除協会, 東京.45pp.
- 1-177) 野呂孝史・井田昭典・河野 信・飯嶋 勉(1981)トマト“東農交配 ふじみ”の育成経過と特性.東京農試研報 14:118-122.
- 1-178) 小野 剛(2004a) *Sclerotinia sclerotiorum*によるシカクマメおよびカボチャ菌核病(新称).日植病報 70(1):45.
- 1-179) 小野 剛・栄森弘己・大林隆司・竹内 純(2004b) *Lasiodiplodia theobromae*によるシカクマメ褐色腐敗病(新称)の発生.日植病報 7(3):224.
- 1-180) 佐藤 厚・久保康之・堀江博道・古澤 巖(1995) REMI (restriction enzyme mediated integration) を用いた遺伝子タギング法によって得られたアブラナ科野菜炭そ病菌の病原性変異株の解析.(講要)日植病報 61(6):617.
- 1-181) 佐藤允通・山田正和・中澤靖彦・堀江博道(1997)爪楊枝を用いた灰色かび病菌の薬剤感受性簡易検定法.関東病虫研報 44:97-101.
- 1-182) 佐藤豊三(1985)小笠原産サビキン類 -.日本菌学会 29大会講演要旨集:59.
- 1-183) 佐藤豊三(1986)小笠原産サビキン類 -.日本菌学会 30大会講演要旨集:59.
- 1-184) 佐藤豊三(1987a)小笠原諸島の作物病原菌類.東京農試研報 20:19-38.
- 1-185) 佐藤豊三(1987b)小笠原諸島の作物菌類病.植物防疫 41(12):588-591.
- 1-186) 佐藤豊三(1987c)小笠原産サビキン類 -.日本菌学会 31大会講演要旨集:53.
- 1-187) 佐藤幸生・栄森弘己・坂田さと子(1996)アシタバに発生したうどんこ病(新称).(講要)日植病報 62(3):263.
- 1-188) 佐藤幸生・栄森弘己・坂田さと子・堀江博道(1997)伊豆大島におけるアシタバうどんこ病(新称)の発生.関東病虫研報 44:35-39.
- 1-189) 濫澤英城・平野壽一(1995)アシタバ急性萎凋症の発生要因と対策.東京農試研報 26:13-22.
- 1-190) 白濱賢一(1950a)稚大根に対する有翅アブラムシの飛来数と大根モザイク病の発病について(第1報).日植病報 14(3-4):79-80.
- 1-191) 白濱賢一(1950b)練馬地区に於ける十字科蔬菜のウイルス病並に寄生アブラムシの発生消長.(講要)日植病報 14(3-4):114.
- 1-192) 白濱賢一(1950c)稚大根に対する有翅アブラムシの飛来状況と大根モザイク病発病率に就いて.(1949年 日本植物病理学会秋季関東部会 講演)日植病報 15(1):46.
- 1-193) 白濱賢一・本橋精一(1951a)稚大根に対する有翅アブラムシの飛来と大根モザイク病の発病について(第2報).日植病報 15(3-4):133-134.
- 1-194) 白濱賢一・本橋精一(1951b)稚大根に対する有翅アブラムシの飛来と大根モザイク病の発病について(第2報).(講要)日植病報 15(3-4):173.
- 1-195) 白濱賢一・本橋精一(1952a)稚大根に対する有翅アブラムシの飛来と大根モザイク病の発病について(第3報)有翅アブラムシの飛来消長と発病.(講要)日植病報 16(2):75.
- 1-196) 白濱賢一・本橋精一(1952b)大根生育初期に於ける有翅アブラムシの飛来消長と大根モザイク病の発病について(第3報).(講要)日植病報 16(3-4):121-122.
- 1-197) 白濱賢一(1953a)大根モザイク病 ~昭和27年度東京都に於ける総合展示について~.植物防疫 7(3-4):116-121.
- 1-198) 白濱賢一(1953b)蔬菜の病害研究 十字科蔬菜の根瘤病の防除(2).植物防疫 7(9):326-328.
- 1-199) 白濱賢一(1955)十字科蔬菜の根瘤病の防除.農及園 30(1):197-201.
- 1-200) 白濱賢一(1957)大根モザイク病並びにその防除に関する研究.(学位論文)東京都農林水産部.
- 1-201) 白濱賢一(1959)東京都における線虫の防除事例.植物防疫 13(3):127-130.
- 1-202) 白濱賢一(1961)そ菜に対する殺線虫剤の使い方.植物防疫 15(3):103-105.

- 1-203) 白濱賢一 (1963) そ菜栽培の省力化と病害虫。植物防疫 17(7) : 287-288 .
- 1-204) 白濱賢一 (1966) 温室, ハウスの土壌消毒および資材の消毒と環境衛生。植物防疫 20(10) : 456-462 .
- 1-205) 菅田重雄・新井 茂・竹田美代子・横浜正彦 (1964a) シュンギク炭そ病に対する散布殺菌剤の効果について (講要) 日植病報 29(5) : 287 .
- 1-206) 菅田重雄・新井 茂・横浜正彦 (1964b) そ菜, 花きうどんこ病に対する数種殺菌剤の効果試験。関東病虫研報 11 : 49 .
- 1-207) 菅田重雄・新井 茂・横浜正彦・鈴木直治 (1964c) アブラナ科そ菜ねこぶ病のトラップ法による病土検診について。(講要) 日植病報 29(5) : 261 .
- 1-208) 菅田重雄・新井 茂・横浜正彦 (1965a) ツケナ根こぶ病に対するPCNB粉剤・同液剤の効果試験 (続3)。関東病虫研報 12 : 38 .
- 1-209) 菅田重雄・新井 茂・横浜正彦 (1965b) そ菜, 花きうどんこ病に対する数種殺菌剤の効果試験 (第2報)。関東病虫研報 12 : 51 .
- 1-210) 菅田重雄・新井 茂・前田速雄・澤地信康・高橋洋二 (1966) シュンギク炭そ病防除試験 (第2報) 種子の新旧と発病の関係。関東病虫研報 13 : 50 .
- 1-211) 菅田重雄・高橋洋二・堀江博道・栗原茂次・新井 茂・井田昭典 (1974) 軟弱野菜の病害虫発生状況 (連・輪作)。関東病虫研報 21 : 51 .
- 1-212) 菅田重雄・堀江博道 (1975) 都内で発生したネギ属植物を侵す*Botrytis*属菌について。関東病虫研報 22 : 56 .
- 1-213) 菅田重雄 (1976a) 原色 新しい病害虫 (関東東山地区病害虫専門技術員協議会編)。セルリ茎枯病。全国農村教育協会, 東京 .
- 1-214) 菅田重雄・堀江博道・土方 智 (1976b) ダイズ斑点細菌病の品種間差異。関東病虫研報 23 : 27 .
- 1-215) 菅田重雄・堀江博道 (1977a) ネギ菌核性病害 (*Botrytis* spp.) に対する土壌検診の可能性。関東病虫研報 24 : 41 .
- 1-216) 菅田重雄・堀江博道 (1977b) ネギ菌核性病害 (*Botrytis* spp.) の土壌検診。(講要) 日植病報 43(1) : 119 .
- 1-217) 菅田重雄・堀江博道 (1979) コマツナ白さび病の年間発生消長と生育初期の薬剤散布効果。関東病虫研報 26 : 52 .
- 1-218) 菅田重雄・堀江博道 (1983) コマツナ白さび病に対する薬剤効果。関東病虫研報 30 : 86 .
- 1-219) 田畑美津子・飯嶋 勉・福家洋子・松岡博厚・與良 清 (1985) ダイコン根くびれ病菌 (*Aphanomyces raphani* Kendrick) の保存培養について。(講要) 日植病報 51(1) : 52 .
- 1-220) 竹内 純・平野寿一・大川 篤 (1992) キュウリのネコブセンチュウに対する数種殺線虫剤の効果。関東病虫研報 39 : 301-302 .
- 1-221) 竹内 純・平野寿一・堀江博道・大川 篤・星 秀男 (1993a) ウド軟化栽培における疫病の防除。関東病虫研報 40 : 105-107 .
- 1-222) 竹内 純・堀江博道・飯嶋 勉 (1993b) ウド根株養成畑における疫病的発生。(講要)。日植病報 59(1) : 97 .
- 1-223) 竹内 純・堀江博道・武田直克・渡辺建司・土生昶毅 (1994) タバココナジラミによるシュンギクの退緑症状の発生。関東病虫研報 41 : 295-297 .
- 1-224) 竹内 純・堀江博道 (1995a) アシタバ葉枯病 (新称) の発生。関東病虫研報 42 : 111-114 .
- 1-225) 竹内 純・堀江博道・平野壽一 (1995b) 数種園芸作物の灰色かび病 (新称)。関東病虫研報 42 : 105-108 .
- 1-226) 竹内 純・堀江博道・飯嶋 勉 (1995c) モロヘイヤ, プリムラ及びフェニックスの苗立枯病 (新称)。関東病虫研報 42 : 119-122 .
- 1-227) 竹内 純・渡辺建司・堀江博道・武田直克・両角正博・川村眞次 (1995d) ダゾメット粉粒剤によるコマツナ萎黄病の防除。関東病虫研報 42 : 73-74 .
- 1-228) 竹内 純・堀江博道 (1996) チンゲンサイ, アシタバ, ペンステモン, シレネおよびバーベナの菌核病 (新称)。関東病虫研報 43 : 67-70 .
- 1-229) 竹内 純・藤澤一郎・堀江博道 (1997a) コマツナモザイク症状株から検出されたウイルスとその病原性。関東病虫

研報 44 : 33 .

- 1-230) 竹内 純・堀江博道 (1997b) *Phoma exigua* によるレタス株枯病 (新称) の発生 . (講要) 日植病報 63(3) : 200
- 1-231) 竹内 純・堀江博道・海保富士男 (1998) トマト台木品種の褐色根腐病および根腐萎凋病に対する抵抗性検定 . 関東
病虫研報 45 : 39-41 .
- 1-232) 竹内 純・堀江博道 (2000a) *Rhizoctonia solani* によるセルリー苗立枯病 (新称) の発生 . 関東病虫研報 47 :
43-44 .
- 1-233) 竹内 純・堀江博道 (2000b) サヤエンドウおよびアルプカに発生した疫病 (新称) . 関東病虫研報 47 : 45-48 .
- 1-234) 竹内 純・堀江博道・土生昶毅 (2000c) アザミウマ類によるコマツナ葉の奇形および白色斑点の発生 . 関東病虫研
報 47 : 149-152 .
- 1-235) 竹内 純・堀江博道・久保田まや (2000d) 新病害 , セルリー炭疽病およびルスカスこうじかび病の発生 . (講要) 日
植病報 66 (2) : 92 .
- 1-236) 竹内 純・堀江博道・栄森弘己・野口 貴 (2003a) エダマメに発生した *Phoma exigua* によるダイズ茎枯病 . 関東
病虫研報 50 : 57-60 .
- 1-237) 竹内 純・堀江博道・栄森弘己・竹内浩二・西村修一 (2003b) ワサビに発生した灰色かび病 (新称) および
Rhizoctonia solani による葉腐れ症状 . 関東病虫研報 50 : 62-64 .
- 1-238) 竹内 純・堀江博道・佐藤豊三・長尾英幸 (2003c) *Phoma wasabiae* Yokogi によるコマツナ斑葉病 (新称) . (講要)
日植病報 69(3) : 260-261 .
- 1-239) 竹内 純・堀江博道・栄森弘己 (2004) ツルナ疫病 (新称) の発生 . 関東病虫研報 51 : 55-57 .
- 1-240) 竹内 純・堀江博道・菅原裕一・佐藤幸生 (2005) 数種ハーブ類に新発生したうどんこ病 . (講要) 日植病報 71(1) :
(印刷中)
- 1-241) Tomioka, K., J. Takeuchi, T. Sato and T. Nakanishi (2002) *Rhizoctonia* blight of yacon caused by *Rhizoctonia*
solani AG-1 (IB) . J. Gen. Plant. Pathol. 68(1) : 103-104 .
- 1-242) 藪本 修・田坂耕一郎・阿部善三郎 (1974) トマト半身萎ちょう病に対する接木栽培の効果 . 関東病虫研報 21 : 39 .
- 1-243) 山田正和・合田健二・堀江博道・中澤靖彦 (1996) 関東東山地域における灰色かび病菌のベンズイミダゾール系薬剤 ,
ジカルボキシミド系薬剤およびジエトフェンカルブに対する感受性 (1993~1994年) . (講要) 日植病報 62(3) : 283 .
- 1-244) 横浜正彦 (1952) 胡瓜露菌病の一考察 ダイセーンの実用価値について . 植物防疫 69(9-10) : 359-360 .
- 1-245) 横浜正彦 (1954a) ダイセーン Z-78 水和剤がキュウリ炭疽病 , 露菌病の発病並びに収量に及ぼす影響 . (農業に関する
シンポジウム . 殺菌剤の応用に関する研究) . (講要) 日植病報 19(1-2) : 77-78 .
- 1-246) 横浜正彦 (1954b) 条件を異にして貯蔵したダイセーン並びに三共ポルドウの効果について . (講要) 日植病報
18(3-4) : 134 .
- 1-247) 横浜正彦・大塚清次 (1954c) キウリ炭疽病に対する薬剤防除の諸問題 . 関東病虫研報 1 : 28 .
- 1-248) 横浜正彦・大塚清次 (1954d) キウリ炭疽病防除上の二 , 三の問題について . 植物防疫 8(3) : 111-116 .
- 1-249) 横浜正彦・大塚清次 (1954e) キウリ炭疽病菌 , 同黒星病菌の各種殺菌剤に対する抵抗性比較試験 . (講要) 日植病報
18(3-4) : 180 .
- 1-250) 横浜正彦・土方 智・阿部善三郎 (1956) キュウリ主要病害に対するマンゼートの効果 . 関東病虫研報 3 : 49 .
- 1-251) 横浜正彦・阿部善三郎・本橋精一 (1957) 数種蔬菜病害に対するダイセーン M-22 の効果について . (講要) 日植病報
22(2) : 46 .
- 1-252) 横浜正彦・新井 茂・小川照雄 (1961) セルリー斑点病 (*Septoria apii*) に対する散布薬剤の効果比較試験 . 関東病
虫研報 8 : 30 .
- 1-253) 横浜正彦 (1962) 実験室買物ノート . 植物防疫 16(12) : 519-522 .
- 1-254) 横浜正彦・新井 茂 (1963a) そ菜畑におけるクロルピクリンの土壌病害 , 土壌線虫に対する効果に関する試験 . 関
東病虫研報 10 : 27 .

- 1-255) 横浜正彦・菅田重雄・新井 茂 (1963b) ツケナ根こぶ病に対するPCNB粉剤, 同液剤の効果に関する試験. 関東病虫研報 10: 11.
- 1-256) 横浜正彦 (1964a) アブラナ科そ菜根こぶ病の病土検診. 植物防疫 18(7): 301-303.
- 1-257) 横浜正彦・菅田重雄・新井 茂 (1964b) そ菜畑におけるクロールピクリンの効果と経済性. 関東病虫研報 11: 36.
- 1-258) 横浜正彦・菅田重雄・新井 茂 (1964c) 東京都江東地区そ菜畑でのクロールピクリン剤使用の経済的価値. 植物防疫 18(1): 29-31.
- 1-259) 横浜正彦・菅田重雄・新井 茂 (1964d) 江東地区そ菜畑におけるクロールピクリン剤の効果と経済性 続2. 2年連続処理効果.(講要) 日植病報 29(5): 287.
- 1-260) 横浜正彦・菅田重雄・新井 茂 (1964e) 江東地域そ菜畑におけるクロールピクリン剤の効果と経済性 続 持続効果について.(講要) 日植病報 29(2): 65-66.
- 1-261) 横浜正彦・菅田重雄・新井 茂 (1964f) 近年におけるそ菜, 花き類うどんこ病防除薬剤について . 散布剤.(講要) 日植病報 29(5): 263.
- 1-262) 横浜正彦・菅田重雄・新井 茂 (1964g) 近年におけるそ菜, 花き類うどんこ病防除薬剤について . 燻煙剤.(講要) 日植病報 29(5): 287-288.
- 1-263) 横浜正彦・阿部善三郎・本橋精一 (1965) トマトエキ病の薬剤防除について. 関東病虫研報 5: 63-64.

2. 果樹類の病害に関する文献目録

- 2-001) 平野壽一・土方 智・阿部善三郎 (1976) 東京都におけるナシ赤星病の防除時期. 関東病虫研報 23: 54.
- 2-002) 堀江博道・小林享夫 (1975) ナシ科植物に斑点性病害をおこす *Entomosporium* 属菌の所属と病名.(講要) 日植病報 41(3): 253.
- 2-003) 堀江博道・小林享夫 (1977) 緑化樹の新病害 (4) ザクロの褐斑病およびニシキギの円星病.(講要) 日植病報 43(1): 118.
- 2-004) 堀江博道・小林享夫 (1982) 緑化樹の新病害 (8) イチョウすす斑病およびカリン白かび斑点病.(講要) 日植病報 48(1): 135.
- 2-005) 堀江博道 (1984) ごま色斑点病の新しい宿主植物.(講要) 日植病報 50(1): 136.
- 2-006) 堀江博道 (1986) ごま色斑点病およびその病原菌に関する研究. 東京農試研報 19: 1-91.
- 2-007) 堀江博道・飯嶋 勉 (1989) *Phytophthora nicotianae* var. *parasitica* によるオクラ, アシタバ, ドラセナ, パッションフルーツの疫病 (新称).(講要) 日植病報 55(4): 494-495.
- 2-008) 堀江博道・飯嶋 勉・金丸日支男・平野壽一 (1990a) パッションフルーツ輸送流通中の果実腐敗を起因する疫病菌.(講要) 日植病報 56(3): 377.
- 2-009) 堀江博道・飯嶋 勉・佐藤豊三 (1990b) 伊豆諸島および小笠原諸島において採集された炭そ病菌とその宿主植物. 菌蕈研報 28: 267-275.
- 2-010) 堀江博道・飯嶋 勉 (1992) パッションフルーツの疫病及び本病菌による流通中の果実腐敗. 東京農試研報 24: 87-104.
- 2-011) 堀江博道・佐藤幸生・栄森弘己・南 晴文 (2003) 2000~2001年に伊豆大島において記録した有用植物の病害. 関東病虫研報 50: 113-116.
- 2-012) 久保田まや・星 秀男・堀江博道・平野壽一 (1996) パッションフルーツ円斑病 (新称) の発生. 日植病報 62(6): 606.
- 2-013) 佐藤豊三 (1987a) 小笠原諸島の作物病原菌類. 東京農試研報 20: 19-38.
- 2-014) 佐藤豊三 (1987b) 小笠原諸島の作物菌類病. 植物防疫 41(12): 588-591.

- 2-015) 菅田重雄・堀江博道・阿部善三郎・菊池健三郎・小川照雄 (1982) 八丈島で発生したパッションフルーツの立枯症状について. 関東病虫研報 29: 110-111.
- 2-016) 竹内 純・堀江博道 (1996) リンゴくもの巢病 (新称). (講要) 日植病報 62(3): 264-265.
- 2-017) 横浜正彦 (1953) 葡萄晚腐病の防除に関する研究. 第1報 伝染機構について. 東京農試研報 1: 36-42, 図版.

3. 花卉・観葉植物の病害に関する文献目録

- 3-001) 阿部善三郎・平野壽一・本橋精一 (1963) グラジオラスの種球消毒. 関東病虫研報 10: 25.
- 3-002) 阿部善三郎 (1975) 原色 新しい病害虫 (関東東山地区病害虫専門技術員協議会編) ポインセチア根腐病. 全国農村教育協会, 東京.
- 3-003) 阿部善三郎・肥土邦彦・菊池隆壽・半田保之・田中邦雄 (1986) シクラメン灰色かび病の薬剤防除. 関東病虫研報 33: 154-155.
- 3-004) 阿部善三郎・肥土邦彦 (1988) ポインセチア根腐病に対するメタラキシル剤の効果. 関東病虫研報 35: 115-116.
- 3-005) 栄森弘己・渡辺京子・堀江博道 (1989) ケイトウ根腐病感受性の品種間差異. 関東病虫研報 36: 113-114.
- 3-006) 栄森弘己・花田 薫・亀谷満朗・飯嶋 勉 (1990) 伊豆大島のブーバルジアに発生するモザイク病の病原ウイルス. 関東病虫研報 37: 131-133.
- 3-007) 栄森弘己・飯嶋 勉 (1993) カランコエに発生した疫病 (新称). (講要) 日植病報 59(3): 289.
- 3-008) 栄森弘己・亀谷満朗・花田 薫 (1994) キュウリモザイクウイルス (CMV) 弱毒株におけるブーバルジアモザイク病防除の試み. (講要) 日植病報 60(3): 401.
- 3-009) 栄森弘己 (1995a) 伊豆大島のブーバルジア (*Bouvardia* × *hybrida hort.*) に発生するモザイク病の病原ウイルス並びに弱毒ウイルスによる防除の試み. 東京農試研報 26: 51-82.
- 3-010) 栄森弘己 (1995b) 伊豆大島におけるトルコギキョウ株腐病, ブーバルジア苗立枯病 (新称) の発生と薬剤による防除. 関東病虫研報 42: 129-132.
- 3-011) 栄森弘己・飯嶋 勉・堀江博道 (1995c) アシタバ, カラー及びハマオモトの白絹病 (新称). 関東病虫研報 42: 141-142.
- 3-012) 栄森弘己・竹内 純・飯嶋 勉 (1995d) *Phytophthora nicotianae* var. *parasitica* によるアマリリスの疫病 (新称). (講要) 日植病報 61(3): 221.
- 3-013) 栄森弘己 (1998) ブーバルジアの花に発生したキュウリモザイクウイルス (CMV) による花卉の斑入りとえそ性のしみ症状. (講要) 日植病報 64(4): 423-424.
- 3-014) 栄森弘己 (2000) 伊豆諸島におけるフリージアのウイルス病発生実態. (講要) 日植病報 66(2): 144-145.
- 3-015) 栄森弘己・竹内 純 (2004) ヘレボルス白絹病 (新称) の発生. 関東病虫研報 51: 109-110.
- 3-016) 土方 智・寺島 潔・菊池健三郎 (1972) フリージアの菌核病防除について. 関東病虫研報 19: 66.
- 3-017) 平野壽一 (1972) マルチ栽培によるユリモザイク病の防除. 関東病虫研報 19: 68.
- 3-018) 堀江博道・菅田重雄・横浜正彦 (1975) 少量散布機 (ミステイ) による農薬の拡散. 関東病虫研報 22: 141.
- 3-019) 堀江博道・菅田重雄 (1976) キク白さび病冬胞子の発芽に対する2, 3薬剤の効果. 関東病虫研報 23: 67.
- 3-020) 堀江博道・菅田重雄 (1977) キク黒さび病に対する数種薬剤の夏胞子発芽阻害効果と防除効果. 関東病虫研報 24: 83-84.
- 3-021) 堀江博道・菅田重雄・金川利夫 (1983) セッカヤナギさび病の発生状況と防除薬剤. 関東病虫研報 30: 101-102.
- 3-022) 堀江博道・本橋恒樹・飯嶋 勉 (1987) 東京都の6種園芸作物から分離された *Phytophthora nicotianae* var. *parasitica*. 日植病報 54(1): 126.
- 3-023) 堀江博道・飯嶋 勉 (1989) *Phytophthora nicotianae* var. *parasitica* によるオクラ, アシタバ, ドラセナ, パッションフルーツの疫病 (新称). (講要) 日植病報 55(4): 494-495.

- 3-024) 堀江博道・阿部善三郎・飯嶋 勉 (1990a) 東京都におけるナツシロギクさび病の発生とその宿主範囲．関東病虫研報 37：129-130．
- 3-025) 堀江博道・阿部善三郎・飯嶋 勉・平野壽一・肥土邦彦 (1990b) ハボタン萎黄病の発生及び品種による感受性の差異．関東病虫研報 37：119-121．
- 3-026) 堀江博道・飯嶋 勉 (1990c) *Phytophthora cactorum* によるカナメモチ，ピラカンサ，アツモリソウの疫病 (新称)．(講要) 日植病報 56(1)：147．
- 3-027) 堀江博道・飯嶋 勉・佐藤豊三 (1990d) 伊豆諸島および小笠原諸島において採集された炭そ病菌とその宿主植物．菌草研報 28：267-275．
- 3-028) 堀江博道・飯嶋 勉 (1993) テーブルヤシ類の茎腐病 (新称)．(講要) 日植病報 59(3)：292-293．
- 3-029) 堀江博道・萩原博光・山本幸憲・平野壽一 (1994a) モロヘイヤ及びレザーファンの変形菌病 (新称)．関東病虫研報 41：127-128．
- 3-030) 堀江博道・飯嶋 勉 (1994b) ネリネ，サザンクロス及びアシタバの疫病．(講要) 日植病報 60(3)：342．
- 3-031) 堀江博道・飯嶋 勉 (1994c) ポロニア，トリテレイア及びムラサキオモトの疫病 (新称)．(講要) 日植病報 60(6)：747．
- 3-032) 堀江博道・竹内 純・佐藤豊三・菅田重雄 (1994d) *Rhizopus stolonifer* によるニチニチソウくもの巣かび病 (新称)．(講要) 日植病報 59(6)：732．
- 3-033) 堀江博道・合田健二 (1996) 関東東山地域における花き類の薬害事例．関東病虫研報 43：273-277．
- 3-034) 堀江博道・佐藤幸生・福田達男・中村俊治・高松 進 (1997) アマチャ，イトバハルシャギク及びメランポジウムに発生したうどんこ病．日本菌学会 41回大会講演要旨集：24．
- 3-035) 堀江博道 (1998) レザーファンさび病．日本植物病害大事典 (岸 國平編)．全国農村教育協会，東京．p.553．
- 3-036) 堀江博道・萩谷俊一・中澤靖彦・宗 和弘 (2000) 関東東山地域における花き類の薬害事例 ()．関東病虫研報 47：173-178．
- 3-037) 堀江博道・栄森弘己 (2001) スイートピー灰色かび病 (新称)．関東病虫研報 48：61-64．
- 3-038) 堀江博道・栄森弘己 (2002a) スイートピー灰色かび病の発生確認．今月の農業 46(9)：30-31，口絵写真．
- 3-039) 堀江博道・星 秀男 (2002b) ブーバルジア菌核病 (新称) の発生．関東病虫研報 49：69-71．
- 3-040) 堀江博道 (2003a) 緑花植物 の病害診断と対策．(講演) 国際植物増殖者会議日本支部 10回東京大会．
- 3-041) 堀江博道・佐藤幸生・栄森弘己・南 晴文 (2003b) 2000～2001年に伊豆大島において記録した有用植物の病害．関東病虫研報 50：113-116．
- 3-042) 堀江博道・飯嶋 勉 (2004a) テーブルヤシ類茎腐病 (新称)．関東病虫研報 51：81-86．
- 3-043) 堀江博道・竹内浩二・南 晴文 (2004b) ネコブセンチュウの密度とガーベラ生育阻害の関係．関東病虫研報 51：137-140．
- 3-044) 星 秀男・堀江博道・宇津木栄司・田中邦雄 (2001a) 伊豆大島における薬剤耐性トルコギキョウ灰色かび病菌の発生状況．関東病虫研報 48：79-83．
- 3-045) 星 秀男・堀江博道・宇津木栄司・田中邦雄 (2001b) 伊豆大島におけるトルコギキョウ根腐病の発生．関東病虫研報 48：85-87．
- 3-046) 星 秀男・堀江博道 (2002) 伊豆大島における薬剤耐性トルコギキョウ灰色かび病菌の発生状況．今月の農業 46(9)：19-23，口絵写真．
- 3-047) 星 秀男・堀江博道 (2003) 八丈島で発生した *Rhizopus* sp. によるユリの茎腐れ症状．関東病虫研報 50：95-99．
- 3-048) 星 秀男・堀江博道 (2004a) *Rhizopus* 属菌によるルスカス褐点病 (新称) の発生．関東病虫研報 51：93-95．
- 3-049) 星 秀男・堀江博道 (2004b) *Rhizoctonia solani* AG-4 (A) によるサンダーソニア立枯病の発生．関東病虫研報 51：97-100．
- 3-050) 飯嶋 勉・神田 多・本橋精一 (1965) *Rhizoctonia solani* Kühn による2，3の花きの病害について．(講要) 日植

病報 30(5) : 268 .

- 3-051) 飯嶋 勉・三上元一 (1971) *Verticillium* sp. によるキクの立枯性病害について . (講要) 日植病報 37(4) : 174-175 .
- 3-052) 飯嶋 勉・橋本貞夫 (1972a) ポットマム白さび病に対するプラントボックスの効果 . 関東病虫研報 19 : 62 .
- 3-053) 飯嶋 勉・三上 元一 (1972b) キクの半身萎ちょう病 . 植物防疫 26(11) : 443-445 .
- 3-054) 飯嶋 勉 (1977a) 東京都におけるオキシカルボキシ耐性キク白さび病菌の発生 . 東京農試研報 10 : 31-41 .
- 3-055) 飯嶋 勉・柴田 尚 (1977b) 東京都におけるオキシカルボキシ耐性キク白さび病菌の発生 . (講要) 日植病報 43(1) : 126 .
- 3-056) 飯嶋 勉 (1978) キク白さび病に対する数種薬剤の効果 . 関東病虫研報 25 : 81 .
- 3-057) 飯嶋 勉 (1979) キミガヨランの眼点病 . (講要) 日植病報 45(1) : 80 .
- 3-058) 飯嶋 勉 (1981) 東京都における各種パーティシリウム病の発生状況と新病害5種 . (講要) . 日植病報 47(3) : 379 .
- 3-059) 飯嶋 勉・安達義孝・堀江博道 (1987) *Aphanomyces iridis*によるシャガ黄化腐敗病 (新称) . (講要) 日植病報 54(1) : 126-127 .
- 3-060) 飯嶋 勉・栄森弘己・堀江博道 (1989a) シャガ黄化腐敗病の薬剤防除 . 関東病虫研報 36 : 119-120 .
- 3-061) 飯嶋 勉・渡辺京子・堀江博道 (1989b) *Aphanomyces cochlioides*によるケイトウ根腐病 (新称) . (講要) 日植病報 55(1) : 120 .
- 3-062) 飯嶋 勉・堀江博道 (1990) シャガ黄化腐敗病の発生と対策 . 農耕と園芸 45(6) : 60-61 .
- 3-063) 石塚まや・堀江博道・平野寿一 (1994) フィロデンドロンの疫病 (新称) . (講要) 日植病報 59(6) : 731 .
- 3-064) 梶原敏宏・菅田重雄 (1971) キクの*Rhizoctonia*菌による立枯病について . 関東病虫研報 18 : 74 .
- 3-065) 柿蔭 眞・飯嶋 勉・佐藤昭二 (1988) レザーファンのさび病 (新称) . (講要) 日植病報 54(3) : 348-349 .
- 3-066) 柿蔭 眞・竹内 純・堀江博道 (1999) ベニバナダイコンソウに発生したさび病 (新称) . (講要) 日植病報 65(3) : 410 .
- 3-067) 神田 多・飯嶋 勉・本橋精一 (1965) ルドベキアの萎凋病 (仮称) について . (講要) 日植病報 30(5) : 293 .
- 3-068) 神田 多・飯嶋 勉 (1986) レザーファンの葉枯病 (新称) . (講要) 日植病報 52(3) : 534 .
- 3-069) 河野敏郎・星 秀男・高橋幸吉・堀江博道・高橋義行 (1998) トマト黄化えそウイルス (TSWV) によるシネラリア , マリーゴールドおよびナスの黄化えそ病 (新称) . (講要) 日植病報 64(6) : 597-598 .
- 3-070) Kobayashi, T., Y.Ono, J.Takeuchi and H.Hoshi (2005) Notes on various plant inhabiting fungi from Hachijo-island, Tokyo (1) . Mycoscience 46 : (印刷中) .
- 3-071) 久保田まや・堀江博道・平野寿一 (1993) フィロデンドロン疫病 (新称) の発生 . 日植病報 59(1) : 731 .
- 3-072) 久保田まや・平野寿一 (1995) モンステラ斑葉病 (新称) の発生 . 関東病虫研報 42 : 123-125 .
- 3-073) 久保田まや (1997) *Rhizoctonia solani*によるユリオプス株腐病およびシレネ葉腐病 (新称) . 関東病虫研報 44 : 153-155 .
- 3-074) 久保田まや (2000a) シェフレラおよびスマイラックス根腐病 (新称) の発生 . 関東病虫研報 47 : 97-100 .
- 3-075) 久保田まや (2000b) ペンステモン , カンパニユラおよびルクリア疫病 (新称) の発生 . 関東病虫研報 47 : 101-104 .
- 3-076) 久保田まや (2001) ストレリチア葉枯病 (新称) の発生 . 関東病虫研報 48 : 89-92 .
- 3-077) 小野 剛 (2004) 2種の*Poyscias*属植物に発生した斑点病 (新称) . 関東病虫研報 51 : (印刷中)
- 3-078) 佐藤豊三 (1985) 小笠原産サビキン類 . . 日本菌学会 29回大会講演要旨集 : 59 .
- 3-079) 佐藤豊三 (1986) 小笠原産サビキン類 . . 日本菌学会 30回大会講演要旨集 : 59 .
- 3-080) 佐藤豊三 (1987a) 小笠原諸島 (父島 , 母島) の作物病原菌類 . 東京農試研報 20 : 19-38 .
- 3-081) 佐藤豊三 (1987b) 小笠原諸島の作物菌類病 . 植物防疫 41 (12) : 588-591 .
- 3-082) Sato, T., J.Takeuchi, H.Nagao and K.Tomioka (2004) Phytopathological, morphological and molecular variations of *Plectosporium tabacium* in Japan . Proceedings of the Tenth International Congress for Culture Collections (ICCC-10)(国際微生物保存機関会議) : 639 .
- 3-083) 佐藤幸生・堀江博道・坂田さと子 (1996) フジバカマうどんこ病菌 , *Erysiphe cichoracearum* var. *cichoracearum* .

(講要) 日本菌学会 40回大会講演要旨集 : 19 .

- 3-084) 菅田重雄 (1964a) シクラメンいちょう病について . 植物防疫 18(12) : 490-492 .
- 3-085) 菅田重雄・新井 茂・横浜正彦 (1964b) シクラメンちょうい病 (仮称) について . (講要) . 日植病報 29(2) : 65 .
- 3-086) 菅田重雄 (1969) クンシラン , テッセンの白絹病に関する試験 . 関東病虫研報 16 : 68 .
- 3-087) 菅田重雄・寺島 潔・小林五郎・土方 智 (1972) キク白さび病の薬剤防除 . 関東病虫研報 19 : 60-61 .
- 3-088) 菅田重雄・堀江博道・横浜正彦 (1975) 少量散布機 (ミステイ) による花き類の葉害 . 関東病虫研報 22 : 142 .
- 3-089) 菅田重雄・堀江博道・小川照雄・菊池健三郎 (1976) フリージア菌核病の品種間差異と防除薬剤 . 関東病虫研報 23 : 70 .
- 3-090) 菅田重雄・堀江博道・土方 智 (1977) フリージア菌核病の防除について . 日植病報 42(3) : 371 .
- 3-091) 菅田重雄・堀江博道・肥土邦彦・小川照雄 (1983) シクラメンに対するプロシミドン剤の影響について . 関東病虫研報 30 : 95-96 .
- 3-092) 陶山一男・松山明彦・藤井 溥・飯嶋 勉・阿部善三郎 (1983) *Ruscus* sp. の斑点細菌病 (新称) について . (講要) 日植病報 49(3) : 405 .
- 3-093) 高鳥四郎・菊池隆壽・荒川 昭・工藤 忠・阿部善三郎 (1975) ポインセチア根腐症の防除 . 関東病虫研報 22 : 73 .
- 3-094) 竹内 純・平野壽一 (1992) *Rhizoctonia solani* によるポチュラカ立枯病 (新称) . 関東病虫研報 39 : 171-172 .
- 3-095) 竹内 純・堀江博道 (1993a) *Rhizoctonia solani* によるガゼニア葉腐病及びコトネアスターくもの葉病 (新称) . 関東病虫研報 40 : 161-162 .
- 3-096) 竹内 純・堀江博道 (1993b) チヂミバペペロミア , ジャノヒゲ及びアジュガの白絹病 (新称) . 関東病虫研報 40 : 163-165 .
- 3-097) 竹内 純・堀江博道 (1994a) 東京都で発生した *Rhizoctonia solani* による数種園芸作物の病害 . 関東病虫研報 41 : 135-139 .
- 3-098) 竹内 純・堀江博道 (1994b) キルタンサス , ブーパルジア及びエボルブルスの灰色かび病 (新称) . 関東病虫研報 41 : 141-143 .
- 3-099) 竹内 純・堀江博道・安藤勝彦・平野壽一 (1994c) *Acremonium* 属菌によるクルクマさび斑病 (新称) . (講要) 日植病報 60(6) : 747 .
- 3-100) 竹内 純・堀江博道・平野壽一 (1994d) アマクリナム褐斑病 (新称) の発生 . 関東病虫研報 41 : 149-152 .
- 3-101) 竹内 純・堀江博道 (1995a) *Rhizoctonia solani* による園芸作物の新病害 . 植物防疫 49(5) : 184-186 , 口絵写真 .
- 3-102) 竹内 純・堀江博道 (1995b) オミナエシ , シヤスターデージー , ルドベキアおよびヘリクリサムの半身萎凋病 (新称) . (講要) 日植病報 61(3) : 220 .
- 3-103) 竹内 純・堀江博道・福田達男・平野壽一 (1995c) サンダーソニア及びオオバナオケラの白絹病 . 関東病虫研報 42 : 143-146 .
- 3-104) 竹内 純・堀江博道・平野壽一 (1995d) 数種園芸作物の灰色かび病 (新称) . 関東病虫研報 42 : 105-108 .
- 3-105) 竹内 純・堀江博道・飯嶋 勉 (1995e) モロヘイヤ , プリムラ及びフェニックスの苗立枯病 (新称) . 関東病虫研報 42 : 119-122 .
- 3-106) 竹内 純・久保田まや・堀江博道 (1995f) ヒメツルニチニチソウ黒枯病 (新称) の発生 . 関東病虫研報 42 : 115-118 .
- 3-107) 竹内 純・堀江博道 (1996a) チンゲンサイ , アシタバ , ペンステモン , シレネおよびバーベナの菌核病 (新称) . 関東病虫研報 43 : 67-70 .
- 3-108) 竹内 純・堀江博道 (1996b) キキョウおよびベニバナの半身萎凋病 (新称) . 関東病虫研報 43 : 125-127 .
- 3-109) 竹内 純・堀江博道 (1996c) 東京都におけるギボウシ・ノシラン・ジャノヒゲ炭疽病 (新称) の発生 . (講要) 日植病報 62(3) : 264-265 .
- 3-110) 竹内 純・堀江博道 (1996d) ペチュニアこうがい病 (新称) . (講要) 日植病報 62(6) : 607-608 .
- 3-111) 竹内 純・堀江博道・荒巻一雄 (1996e) *Rhizoctonia solani* によるアルターナンセラ , レオノチス , ペンタスおよび

びシバザクラの新病害．関東病虫研報 43：133-135．

- 3-112) 竹内 純・堀江博道・金川利夫 (1996f) キルタンサス，シバザクラおよびペンステモンの白絹病 (新称) の発生．(講要) 関東病虫研報 43：129-131．
- 3-113) 竹内 純・堀江博道 (1997a) フロックス斑点病 (新称) の発生．関東病虫研報 44：171-173．
- 3-114) 竹内 純・堀江博道 (1997b) *Colletotrichum acutatum* によるアマクリナム，ペコニアおよびスダジイの炭疽病．関東病虫研報 44：175-178．
- 3-115) 竹内 純・堀江博道 (1997c) ユキノシタ斑葉病 (新称) の発生．関東病虫研報 44：179-181．
- 3-116) 竹内 純・堀江博道 (1997d) *Rhizoctonia solani* によるホオズキ葉腐病 (新称) およびポインセチア立枯病 (新称) の発生．関東病虫研報 44：183-185．
- 3-117) 竹内 純・堀江博道 (1998a) ダリア，ルリタマアザミおよびリアトリスの半身萎凋病 (新称)．関東病虫研報 45：123-125．
- 3-118) 竹内 純・堀江博道 (1998b) ムシトリナデシコ，ウインターコスモスおよびヘリオプシスの白絹病 (新称)．関東病虫研報 45：127-129．
- 3-119) 竹内 純・堀江博道 (1998c) *Rhizoctonia solani* によるペンステモン葉腐病，ペニバナおよびルリタマアザミ立枯病 (新称) の発生．関東病虫研報 45：131-133．
- 3-120) 竹内 純・堀江博道 (1998d) アジュガ株枯病 (新称)．関東病虫研報 45：135-137．
- 3-121) 竹内 純・堀江博道 (1998e) 最近発生した花き類のパーティシリウム病．植物防疫 52(8)：344-346．
- 3-122) 竹内 純・堀江博道 (1998f) パンジーおよびビオラに発生した疫病 (新称)．(講要) 日植病報 64(4)：433-434．
- 3-123) 竹内 純・堀江博道 (1999a) *Rhizoctonia solani* によるアスチルベおよびオタカンサス立枯病 (新称) の発生．関東病虫研報 46：53-55．
- 3-124) 竹内 純・堀江博道 (1999b) シュクコンアスターおよびムギワラギク菌核病 (新称) の発生．関東病虫研報 46：57-59．
- 3-125) 竹内 純・堀江博道 (1999c) アルストロメリア根茎腐敗病およびガーベラ紫斑病 (新称) の発生．(講要) 日植病報 65(3)：410．
- 3-126) 竹内 純・堀江博道 (1999d) フェニックス炭疽病および褐紋病 (新称) の発生．(講要) 日植病報 65(6)：657-658．
- 3-127) 竹内 純・水久保隆之・堀江博道 (1999e) イチゴセンチュウによるブーバルジア葉枯線虫病の発生．関東病虫研報 46：141-144．
- 3-128) 竹内 純・堀江博道 (2000a) サヤエンドウおよびアルブカに発生した疫病 (新称)．関東病虫研報 47：45-48．
- 3-129) 竹内 純・堀江博道 (2000b) ペチュニアこうがいかび病 (新称) の発生．日植病報 66(2)：72-77．
- 3-130) 竹内 純・堀江博道 (2000c) フェニックス黒葉枯病およびペスタロチア病 (新称) の発生．(講要) 日植病報 66(3)：273．
- 3-131) 竹内 純・堀江博道・久保田まや (2000d) 新病害，セルリー炭疽病およびルスカスこうじかび病の発生．(講要) 日植病報 66(2)：92．
- 3-132) 竹内 純・堀江博道 (2001a) サンダーソニアおよびケンチャヤシに発生した疫病 (新称)．(講要) 日植病報 67(2)：166
- 3-133) 竹内 純・堀江博道 (2001b) *Colletotrichum acutatum* および *C. truncatum* によるスイートピー炭疽病 (病原追加) (講要) 日植病報 68(1)：66．
- 3-134) 竹内 純・堀江博道・西村修一 (2001c) *Pythium* 属菌 2 種によるサンダーソニア根腐病 (新称)．関東病虫研報 48：65-67．
- 3-135) 竹内 純・堀江博道・西村修一 (2001d) ルスカスに発生した灰色かび病および葉先枯病 (新称)．関東病虫研報 48：69-73．
- 3-136) 竹内 純・堀江博道・西村修一 (2001e) *Bipolaris* sp. によるカラテア，クテナンテおよびマランタの円斑病 (新称)．関東病虫研報 48：75-78．

- 3-137) 竹内 純・堀江博道・西村修一 (2002a) ビャクブに発生した灰色かび病および炭疽病 (新称). 関東病虫研報 49 : 81-84 .
- 3-138) 竹内 純・堀江博道・西村修一 (2002b) チトセラン腐敗病 (新称) の発生. 関東病虫研報 49 : 89-91 .
- 3-139) 竹内 純・堀江博道・栄森弘己・大林隆司 (2004a) *Rhizoctonia solani*によるマツバギク, ツルニチニチソウおよびアペリアの新病害. 関東病虫研報 51 : 75-77 .
- 3-140) 竹内 純・堀江博道・飯嶋 勉 (2004b) 東京都で発生したエビネおよびヘレボリスの根黒斑病 (新称). 日植病報 70(1) : 46 .
- 3-141) 竹内 純・廣岡裕史・夏秋啓子・堀江博道 (2005a) *Cylindrocladium theae* によるサラセニア褐斑病.(講要) 日植病報71(1) : (印刷中)
- 3-142) 植松清次・都崎芳久・大沢高志・堀江博道・三平東作・十河和博・尾崎 丞・赤山喜一郎・本間宏基 (1991) パセリーに発生した炭そ病 (新称). 日植病報 57(3) : 398 .
- 3-143) 植松清次・堀江博道・君島悦夫・中村靖弘 (1994) *Phytophthora nicotianae* 及び *P.palmivora* によるストレリチア疫病 (新称).(講要) 日植病報 60(6) : 746-747 .
- 3-144) 浮田 実・飯嶋 勉 (1987a) フリージア菌核病の発生生態と防除薬剤. 関東病虫研報 34 : 121-122 .
- 3-145) 浮田 実・飯嶋 勉 (1987b) フリージア菌核病に対するダゾメット剤の効果的使用法. 関東病虫研報 34 : 123-124 .
- 3-146) 横浜正彦・新井 茂・小川照雄 (1961a) パーベナうどんこ病に対する散布薬剤の効果比較試験. 関東病虫研報 8 : 33 .
- 3-147) 横浜正彦・菅田重雄・新井 茂 (1961b) 各種花卉類におけるボトリチス病の病徴について.(講要) 日植病報 26(5) : 218 .
- 3-148) 横浜正彦・菅田重雄・新井 茂 (1962) 花き類ボトリチス病の防除について. 関東病虫研報 9 : 42 .
- 3-149) 横浜正彦・菅田重雄・新井 茂 (1964a) 近年におけるそ菜, 花き類うどんこ病防除薬剤について . 散布剤.(講要) 日植病報 29(5) : 263 .
- 3-150) 横浜正彦・菅田重雄・新井 茂 (1964b) 近年におけるそ菜, 花き類うどんこ病防除薬剤について . 燻煙剤.(講要) 日植病報 29(5) : 287-288 .
- 3-151) 米山伸吾・菅田重雄・飯嶋 勉 (1971) キク白さび病の防除薬剤.(講要) 日植病報 37(5) : 401 .

4 . 緑化樹木 (木本性グラウンドカバープランツを含む) の病害に関する文献目録

- 4-001) 福田達男・堀江博道・田中 博・中村重正 (1990) 薬用植物キバナオウギの新病害茎腐病, 白絹病, うどんこ病.(講要) 日植病報 56(1) : 148 .
- 4-002) 堀江博道・小林享夫 (1974) *Entomosporium*属菌によるシャリンバイの斑点性病害.(講要) 日植病報 40(3) : 186-187 .
- 4-003) 堀江博道・阿久津喜作・菅田重雄 (1975a) 東京都で発生した樹木病害. 関東病虫研報 22 : 74 .
- 4-004) 堀江博道・小林享夫 (1975b) *Entomosporium*属菌によるザイフリボクの斑点性病害.(講要) 日植病報 41(1) : 116-117 .
- 4-005) 堀江博道・小林享夫 (1975c) ナシ科植物に斑点性病害をおこす *Entomosporium*属菌の所属と病名.(講要) 日植病報 41(3) : 253 .
- 4-006) 堀江博道・小林享夫・菅田重雄・阿部善三郎 (1975d) 都立神代植物公園における緑化樹木の病害. 森林防疫 24(4) : 71-75 .
- 4-007) 堀江博道・小林享夫 (1976a) *Entomosporium*属菌によるナシ科樹木のごま色斑点病. 植物防疫 30(1) : 17-20 .
- 4-008) 堀江博道・小林享夫・佐々木克彦 (1976b) *Cercospora*属菌による樹木の新病害2種.(講要) 日植病報 42(3) : 352-353 .
- 4-009) 堀江博道・小河誠司・小林享夫 (1976c) コトネアスター (ベニシタン) の褐斑病. 森林防疫 25(10) : 149-150 .

- 4-010) 堀江博道・小林享夫 (1977a) 緑化樹の新病害 (4) ザクロの褐斑病およびニシギの円星病。(講要) 日植病報 43(1): 118.
- 4-011) 堀江博道・佐々木克彦・小林享夫 (1977b) 都立神代植物公園における緑化樹木の病害(続). 森林防除 26(3): 34-38.
- 4-012) 堀江博道 (1978a) ごま色斑点病菌胞子発芽に対する数種薬剤の効果. 関東病虫研報 25: 80.
- 4-013) 堀江博道 (1978b) 緑化樹に発生したごま色斑点病. 森林防疫 27(7): 109-112.
- 4-014) 堀江博道 (1978c) ミズキ類の輪紋葉枯病 (新称).(講要) 日植病報 44(3): 376-377.
- 4-015) Horie, H. and T.Kobayashi (1978d) Entomosporium leaf spot of Pomoideae (Rosaceae) in Japan . Distribution of the disease ; morphology and physiology of the fungus . Eur.J.For.Path. 9(6) : 366-379 .
- 4-016) 堀江博道・小林享夫 (1978e) カナメモチおよびストランベシアのごま色斑点病 (新称).(講要) 日植病報 44(1) : 106 .
- 4-017) 堀江博道 (1979a) ミズキ類の輪紋葉枯病 . 森林防疫 28(4) : 65-67 .
- 4-018) 堀江博道・小林享夫 (1979b) カルミアの褐斑病 . 東京農試研報 12 : 10-18 .
- 4-019) 堀江博道 (1980a) ミズキ類の輪紋葉枯病 . 東京農試研報 13 : 63-76 .
- 4-020) 堀江博道 (1980b) ミズキ類輪紋葉枯病菌の宿主範囲 .(講要) 日植病報 46(1) : 111 .
- 4-021) Horie, H. and T.Kobayashi (1980c) Entomosporium leaf spot of Pomoideae, Rosaceae in Japan . Parasitism and over-wintering of the fungus . Eur.J.For.Path. 10(2-3) : 117-124 .
- 4-022) Horie, H. and T.Kobayashi (1980d) Entomosporium leaf spot of Pomoideae, Rosaceae in Japan . Additional basis for identification of the fungus, and distribution of the disease . Eur.J.For.Path. 10(4) : 225-235 .
- 4-023) 堀江博道・小林享夫 (1980e) 外国産導入樹木の病害 . 東京農試研報 13 : 77-94 .
- 4-024) 堀江博道・小林享夫 (1980f) 緑化樹の新病害 (6) オウシュウブナすすかび病, ナナカマドすすかび病およびイチゴノキ褐斑病 .(講要) 日植病報 46(3) : 376 .
- 4-025) 堀江博道 (1981a) 観賞樹木の病害に関する研究 .(日本植物病理学会学術奨励賞研究要旨) 日植病報 47(3) : 295 .
- 4-026) 堀江博道 (1981b) 東京都におけるトウカエデのうどん粉病 . 森林防疫 30(11) : 186-188 .
- 4-027) 堀江博道・小林享夫 (1981c) 緑化樹の新病害 (7) シロヤマブキ円斑病およびアセビ褐斑病 .(講要) 日植病報 47(3) : 406-407 .
- 4-028) 堀江博道 (1982a) シャリンバイごま色斑点病の発生消長 . 関東病虫研報 29 : 104-105 .
- 4-029) 堀江博道 (1982b) 輪紋葉枯病の新しい宿主植物 . 森林防疫 31(2) : 27-30 .
- 4-030) 堀江博道 (1982c) ごま色斑点病菌分生子の年間飛散消長 .(講要) 日植病報 49(1) : 57 .
- 4-031) 堀江博道・小林享夫 (1982d) 最近発見された観賞緑化樹木の病害 . 植物防疫 36(1) : 29-34 .
- 4-032) 堀江博道・小林享夫 (1982e) 緑化樹の新病害 (8) イチョウすす斑病およびカリン白かび斑点病 .(講要) 日植病報 48(1) : 135 .
- 4-033) 堀江博道・小林享夫 (1982f) 緑化樹の新病害 (9) カエデ類の炭そ病およびコデマリの炭そ病 .(講要) 日植病報 48(3) : 368-369 .
- 4-034) 堀江博道・小林享夫 (1983a) 都立神代植物公園における観賞緑化樹木の病害 . 東京農試研報 16 : 195-224 .
- 4-035) 堀江博道・小林享夫 (1983b) カエデ類の炭そ病 . 森林防疫 32(1) : 11-14 .
- 4-036) 堀江博道・小林享夫 (1983c) 都立神代植物公園における観賞緑化樹木の病害 .(講要) 日本菌学会 27回大会講演要旨集 : 58 .
- 4-037) 堀江博道・菅田重雄 (1983d) 東京都におけるトウカエデ首垂細菌病・うどんこ病の発生状況と数種薬剤の防除効果 .(講要) 日植病報 49(3) : 420-421 .
- 4-038) 堀江博道 (1984a) 異なる温度下におけるごま色斑点病菌分生子の発芽力保持期間 . 関東病虫研報 30 : 103-104 .
- 4-039) 堀江博道 (1984b) ナシ垂科の緑化樹木に発生するごま色斑点病について . グリーンニュース 6 : 4-6 .

- 4-040) 堀江博道 (1984c) ごま色斑点病の新しい宿主植物。(講要) 日植病報 50(1): 136.
- 4-041) 堀江博道・小林享夫 (1984d) 東山植物園における観賞緑化樹木の病害. 95回日林論 443-444.
- 4-042) 堀江博道・菅田重雄 (1985a) 東京都におけるトウカエデ首垂細菌病およびうどんこ病の発生生態と防除. 東京農試研報 18: 73-95.
- 4-043) 堀江博道・菅田重雄 (1985b) トウカエデ首垂細菌病の薬剤防除. 関東病虫研報 32: 138-139.
- 4-044) 堀江博道・菅田重雄 (1985c) トウカエデうどんこ病の薬剤防除. 関東病虫研報 32: 140-141.
- 4-045) 堀江博道・菅田重雄 (1985d) トウカエデの首垂細菌病とうどんこ病の防除. 今月の農薬 29(11): 74-77.
- 4-046) 堀江博道 (1986) ごま色斑点病およびその病原菌に関する研究. 東京農試研報 19: 1-91.
- 4-047) 堀江博道・菅田重雄 (1987) 東京都におけるトウカエデ首垂細菌病の発生状況と防除. 森林防疫 36(12): 213-217.
- 4-048) 堀江博道・菅田重雄 (1988) 東京都におけるトウカエデうどんこ病の発生状況と防除. 森林防疫 37(1): 6-10.
- 4-049) 堀江博道 (1989) 緑化樹木の病害.(特別講演要旨) 関東病虫研報 36: 9-13.
- 4-050) 堀江博道 (1990a) 花木と庭木の病害. 植物防疫 44(4): 169-172, 口絵写真.
- 4-051) 堀江博道・飯嶋 勉 (1990b) *Phytophthora cactorum* によるカナメモチ, ピラカンサ, アツモリソウの疫病(新称). (講要) 日植病報 56(1): 147.
- 4-052) 堀江博道・佐藤幸生・飯嶋 勉・加藤禎一 (1990c) シラカシうどんこ病とその薬剤防除. 関東病虫研報 37: 147-149.
- 4-053) 堀江博道 (1994) 盆栽に発生する病害とその対策.(特別講演要旨) 盆栽学会 シンポジウム要旨集: 2-9.
- 4-054) 堀江博道 (1995a) 盆栽樹に発生する病害とその対策.(総説) 盆栽学雑誌 8: 1-11.
- 4-055) 堀江博道・竹内 純・佐藤豊三・柿嵐 眞 (1995b) 東京都におけるヒペリカムさび病(新称)の発生. 日植病報 61(6): 604.
- 4-056) 堀江博道・佐藤幸生・福田達男・中村俊治・高松 進 (1997) アマチャ, イトバハルシャギク及びメランボジュウムに発生したうどんこ病. 日本菌学会 41回大会講演要旨集: 24.
- 4-057) 堀江博道・佐藤幸生・竹内 純 (1998a) 東京都におけるスズカケノキ類うどんこ病(新称)の発生.(講要) 日植病報 64(6): 601-602.
- 4-058) 堀江博道・竹内 純・小林享夫 (1998b) 花木・緑化樹木の病害ノート(1) コブシ斑点病とその病原菌. 森林防疫 47(7): 206-210.
- 4-059) 堀江博道・竹内 純・横山奉三郎・佐藤澄仁 (1999) 花木・緑化樹木の病害ノート(2) 外国産ザイフリボク類のごま色斑点病(宿主の追加). 森林防疫 48(7): 129-131.
- 4-060) 堀江博道 (2000) 花木・緑化樹木の病害ノート(3) 樹木類の疫病 ~カナメモチ疫病を例として~. 森林防疫 49(3): 46-50.
- 4-061) 堀江博道・佐藤幸生 (2002a) 近年発生が確認された緑化樹木のうどんこ病. 植物防疫 56(6): 260-264, 口絵写真.
- 4-062) 堀江博道・佐藤幸生・竹内 純 (2002b) 東京都におけるスズカケノキ類うどんこ病(新称)の発生. 関東病虫研報 49: 65-68.
- 4-063) 堀江博道 (2003a) 緑花植物の病害診断と対策.(講演) 国際植物増殖者会議日本支部 10回東京大会.
- 4-064) 堀江博道・佐藤幸生・栄森弘己・南 晴文 (2003b) 2000~2001年に伊豆大島において記録した有用植物の病害. 関東病虫研報 50: 113-116.
- 4-065) 堀江博道・竹内 純・柿嵐 眞・佐藤豊三 (2003c) *Melampsora hypericorum*によるセイヨウキンシバイ(ヒペリカム)さび病の発生. 関東病虫研報 50: 117-122.
- 4-066) 堀江博道 (2004a) 土壌病害と菌類. グリーンエイジ 376: 16-20.
- 4-067) 堀江博道・柿嵐 眞・竹内 純 (2004b) ヒペリカムさび病菌 *Melampsora hypericorum* の新宿主植物. 関東病虫研報 51: 87-92.
- 4-068) 星 秀男・堀江博道・石塚隆治 (1995) *Rhizoctonia solani* によるモントレーサイプレスのくもの巣病. 関東病虫研報 42: 133-136.

- 4-069) 星 秀男・堀江博道・福田達男 (2003) 東京都薬用植物園において数種植物に発生した白絹病. 関東病虫研報 50 : 109-112 .
- 4-070) 飯嶋 勉 (1981) 東京都における各種パーティシリウム病の発生状況と新病害 5 種 . (講要) 日植病報 47(3) : 379 .
- 4-071) Iijima, T., M. Kakishima and Y. Otani (1985a) A new species of *Exobasidium* on *Cinnamomum japonicum* Sieb . Trans.mycol.Soc.Japan 26 : 161-167 .
- 4-072) 飯嶋 勉・柿島 眞・大谷吉雄 (1985b) ヤブニッケイのもち病 (新称) . (講要) 日植病報 51(1) : 94 .
- 4-073) 小林享夫・堀江博道 (1977a) *Monostichella* 属菌によるクマシデ , セイヨウブナおよびシラカンバの病害 . 日本菌学会 21回大会講演要旨集 : 70-71 .
- 4-074) 小林享夫・堀江博道 (1977b) 緑化樹の新病害 (3) ユキヤナギの褐点病およびコゴメウツギの褐斑病 . (講要) 日植病報 43(1) : 118 .
- 4-075) Kobayashi, K., H.Horie and K.Sasaki (1979) Notes on new or little-known fungi inhabiting woody plants in Japan . Trans.mycol.Soc.Japan 20(3) : 325-337 .
- 4-076) 小林享夫・堀江博道 (1980) 緑化樹の新病害 (5) コウヤマキ黄葉病およびヒサカキすすかび病 . (講要) 日植病報 46(3) : 376 .
- 4-077) Kobayashi, T. , Y.Ono , J.Takeuchi and H.Hoshi (2005) Notes on various plant inhabiting fungi from Hachijo-island, Tokyo (1) . Mycoscience 46 :(印刷中)
- 4-078) Nakashima, C., H. Horie and T.Kobayashi (2004) Addition and reexamination of Japanese species belonging to the genus *Cercospora* and allied genera. VI. Four *Pseudocercospora* Japanese species from Ohshima Island, Tokyo . Mycoscience 45(1) : 49-55 .
- 4-079) 佐藤昭二・堀江博道・金子 繁 (1973) ササ類に寄生する *Puccinia longicornis* Pat. et Har. の異種寄生性について . (講要) 日本菌学会 17回大会講演要旨集 : 4 .
- 4-080) Sato, S. and H.Horie (1975) Spermogonial and aecial stages of *Puccinia longicornis* Pat. et Har. Trans. mycol.Soc.Japan 16(2) : 142-145 .
- 4-081) 佐藤豊三 (1985) 小笠原産サビキン類 - . 日本菌学会 29回大会講演要旨集 : 59 .
- 4-082) 佐藤豊三 (1986) 小笠原産サビキン類 - . 日本菌学会 30回大会講演要旨集 : 59 .
- 4-083) 佐藤豊三 (1987a) 小笠原諸島の作物病原菌類 . 東京農試研報 20 : 19-38 .
- 4-084) 佐藤豊三 (1987b) 小笠原諸島の作物菌類病 . 植物防疫 41(12) : 588-591 .
- 4-085) 佐藤豊三 (1987c) 小笠原産サビキン類 - . 日本菌学会 31回大会講演要旨集 : 53 .
- 4-086) 佐藤幸生・堀江博道 (1990) 3種のモクレン属植物に発生する本邦未記録のうどんこ病菌 *Microsphaera bulbosa* . (講要) 日植病報 56(1) : 97 .
- 4-087) 佐藤幸生・竹内 純・堀江博道 (1996) セイヨウキランソウうどんこ病菌 , *Sphaerotheca elscholtziaea* . (講要) 日本菌学会 40回大会講演要旨集 : 20 .
- 4-088) 佐藤幸生・堀江博道 (1998) ヒユウガミズキとスズカケノキ類に新発生したうどんこ病 . (講要) 日植病報 64(4) : 438 .
- 4-089) Suzuki, A., S.Kusumoto, H.Horie and Y.Takikawa (2002) Bacterial leaf spot of ivy caused *Xanthomonas campestris* pv. *hederae* . J.Gen.Plant.Pathol. 68(4) : 398-400 .
- 4-090) 竹内 純・堀江博道 (1993a) *Rhizoctonia solani* によるガゼニア葉腐病及びコトネアスターくもの巢病 (新称) . 関東病虫研報 40 : 161-162 .
- 4-091) 竹内 純・堀江博道 (1993b) チヂミパペロミア , ジャノヒゲ及びアジュガの白絹病 (新称) . 関東病虫研報 40 : 163-165 .
- 4-092) 竹内 純・堀江博道 (1993c) *Pseudonectoria pachysandricola* によるフッキソウの紅粒茎枯病 (新称) . 日植病報 59(3) : 285 .

- 4-093) 竹内 純・堀江博道 (1994a) 東京都で発生した *Rhizoctonia solani* による数種園芸作物の病害 . 関東病虫研報 41 : 135-139 .
- 4-094) 竹内 純・堀江博道 (1994b) フッキソウ及びサルコココカの白絹病 (新称) . 関東病虫研報 41 : 145-147 .
- 4-095) 竹内 純・堀江博道・平野壽一 (1995a) 数種園芸作物の灰色かび病 (新称) . 関東病虫研報 42 : 105-108 .
- 4-096) 竹内 純・堀江博道 (1995b) *Rhizoctonia solani* による園芸作物の新病害 . 植物防疫 49(5) : 184-186 , 口絵写真 .
- 4-097) 竹内 純・久保田まや・堀江博道 (1995c) ヒメツルヒチニチソウ黒枯病 (新称) の発生 . 関東病虫研報 42 : 115-117 .
- 4-098) 竹内 純・堀江博道 (1996a) ヒペリカムさび病の薬剤防除 . 関東病虫研報 43 : 145-147 .
- 4-099) 竹内 純・堀江博道 (1996b) 東京都におけるキツタ疫病およびギボウシ・ノシラン・ジャノヒゲ炭疽病 (新称) の発生 . 日植病報 62(3) : 267 .
- 4-100) 竹内 純・堀江博道 (1997) *Colletotrichum acutatum* によるアマクリナム, ベコニアおよびスダジイの炭疽病 . 関東病虫研報 44 : 175-178 .
- 4-101) 竹内 純・堀江博道 (1998a) *Guignardia* 属菌によるセイヨウキツタおよびアメリカワナンテンの褐斑病 (新称) . 関東病虫研報 45 : 139-142 .
- 4-102) 竹内 純・堀江博道 (1998b) *Phyllosticta* 属菌によるナンテンおよびフッキソウの褐斑病 (新称) . 関東病虫研報 45 : 143-145 .
- 4-103) 竹内 純・堀江博道・川島隆之 (1998c) 天敵出芽細菌およびホスチアゼート粒剤によるコクチナシ根こぶ線虫病の防除 . 関東病虫研報 45 : 249-251 .
- 4-104) 竹内 純・堀江博道 (2001) グラウンドカバープランツに発生する病害 . 植物防疫 55(9) : 401-404 , 口絵写真 .
- 4-105) 竹内 純・堀江博道・栄森弘己・栗原隆治 (2003) オカメザサ炭疽病 (新称) の発生 . 関東病虫研報 50 : 105-107 .
- 4-106) 竹内 純・堀江博道・栄森弘己・大林隆司 (2004a) *Rhizoctonia solani* によるマツバギク , ツルニチニチソウおよびアペリアの新病害 . 関東病虫研報 51 : 75-77 .
- 4-107) 竹内 純・堀江博道 (2004b) カナメモチに発生した灰色かび病 (新称) . 関東病虫研報 51 : 79-80 .
- 4-108) 瀧川雄一・鈴木 歩・楠元智子・堀江博道 (1997) ヘデラ斑点細菌病 (新称) の我が国における発生 ~ 病原菌の同定 ~ . (講要) 日植病報 63(3) : 197 .
- 4-109) 植松清次・赤山喜一郎・大久保博人・鈴井孝仁・塩田あづさ・堀江博道 (1998) キウイフルーツ疫病 (新称) とキツタ (ヘデラ) 類疫病 (病原追加) . (講要) 日植病報 64(4) : 433 .

5 . 飼料作物の病害に関する文献目録

- 5-001) Kobayashi, T. , Y.Ono , J.Takeuchi and H.Hoshi (2005) Notes on various plant inhabiting fungi from Hachijo-island, Tokyo (1) . Mycoscience 46 : (印刷中) .
- 5-002) 竹内 純・堀江博道・西村修一 (2002) ハチジョウススキに発生した紫斑点病 (新称) . 関東病虫研報 49 : 85-87 .

6 . 環境に関する文献目録

- 6-001) 堀江博道・沼沢健一・竹内 純 (1999) 杉並区井草地区において「植物異常」を起こした病害虫 . 関東病虫研報 46 : 153-157 .
- 6-002) 飯嶋 勉 (1972) 被害植物の顕微鏡的観察 (植物被害に関する調査研究) . 東京スモッグ生成機序・植物被害に関する調査研究部会中間報告 (東京スモッグに関する調査研究 2) : 431-433 . 東京都公害研究所 .
- 6-003) 飯嶋 勉・菅田重雄 (1973) 光化学スモッグによる植物の被害 (2) 光学顕微鏡による被害部組織の観察 . (講要) 日

植病報 39(2) : 170 .

- 6-004) 飯嶋 勉(1974a)光化学オキシダントによる農作物の被害症状とその診断.(特別講演要旨)関東病虫研報 21:5-6 .
- 6-005) 飯嶋 勉(1974b)光化学スモッグによる植物の被害(3).(講要)日植病報 40(2):157 .
- 6-006) 飯嶋 勉・本橋精一(1974c)数種農作物のオキシダント指標性(光化学スモッグによる植物被害に関する調査研究).
東京スモッグ生成機序・植物被害に関する調査研究報告(東京スモッグに関する調査研究 3):695-703 . 東京都公害研究所 .
- 6-007) 飯嶋 勉・菅田重雄・本橋精一(1974d)光化学オキシダントによる被害植物の光学顕微鏡による観察(光化学スモッグによる植物被害に関する調査研究). 東京スモッグ生成機序・植物被害に関する調査研究報告(東京スモッグに関する調査研究 3):634-639 . 東京都公害研究所 .
- 6-008) 飯嶋 勉・菅田重雄・大平俊男(1974e)光化学スモッグによる被害植物の組織学的検討 . 東京公研報 4:105-107 .
- 6-009) 野内 勇・飯嶋 勉・大平俊男(1975)植物に及ぼすパーオキシアセチルナイトレート(PAN)の影響(1) PANによる草本植物の被害症状 . 大気汚染研究 9:635-643 .
- 6-010) 大平俊男・沢田 正・古明地哲人・野内 勇・大橋 毅・伊達 昇・飯嶋 勉・寺門和也(1974)アサガオによる光化学スモッグ影響調査(光化学スモッグによる植物被害に関する調査研究). 東京スモッグ生成機序・植物被害に関する調査研究報告(東京スモッグに関する調査研究 3):655-672 . 東京都公害研究所 .
- 6-011) 沢田 正・古明地哲人・野内 勇・大橋 毅・大平 毅・伊達 昇・飯嶋 勉・寺門和也・岩波基樹・米山徳造・服部春子(1974)一都三県植物被害広域調査結果(光化学スモッグによる植物被害に関する調査研究). 東京スモッグ生成機序・植物被害に関する調査研究報告(東京スモッグに関する調査研究3):673-694 . 東京都公害研究所 .
- 6-012) 菅田重雄・飯嶋 勉(1973)光化学スモッグによる植物の被害(1)東京都で観察された被害症状.(講要)日植病報 39(2):170 .

